

宮崎大学医学部整形外科

同門会誌

第 17 号
平成 18 年 6 月

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会



平成17年度 宮崎大学医学部整形外科新入教室員歓迎会 平成17年5月21日 於：魚よし



平成18年度 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会 忘年会 平成17年12月3日 於：ホテル神田橋



ご挨拶

会長

河野雅行

昨年秋の台風による洪水で、被害に遭われた同門諸兄にお見舞いを申し上げますと共に一日も早く復興されることを祈念いたします。

未曾有の医療費改悪に対する攻防で暮れた昨年でしたが、皆様方にはお変わりなくお過ごしでしょうか？今回診療報酬・介護報酬改定がマイナス改定となった事により、責任問題は日医執行部にまで厳しく問われました。県医師会、市郡医師会レベルでも相応の検証がなされました。その一環として各地区で医師会選挙が執り行われ、役員顔ぶれも大分入れ替わっております。同門会員諸兄も各地区医師会の役員として多数選出されました。選出された先生方の今後の御苦勞と活躍が期待されます。整形外科分野に限りますと、前回のリハビリや再診料等の衝撃的な点数改悪により大打撃を受けた上に、今回再び追い討ちを掛けられる様に全体的な診療報酬の削減が為されております。加算・減算の対象が細かく規定されました。改悪後の医療機関に於ける実態調査結果が近日中に医師会から発表になると思われます。システムの変更に伴い、先日行われた運動器リハの講習・試験を受けさせられた先生方も多いと思われます。しかもこれで終わった訳ではありません。今後、厳しさが増して行くものと推定されます。

帖佐教授が大学病院副院長に就任されました。大学内でますます重きを成されることでしょうか。祝辞を述べさせていただくと共に組織運営に携われる事となりますので、ご心勞は増えることと思ひます。ご苦勞様です。教室では過去2年間は新研修制度の影響で入局が少なく、実働人員不足でローテーションが大変だとも聞いておりましたが、本年度は教室・教授の魅力に相増してスタッフの御努力で多数の新入局がありました。大いに期待しております。同門会活動にも積極的に御参加をお願いいたします。教室の中では帖佐教授を中心として堅実に教室造りを推し進めていらっしゃる

ようで、その成果も挙がって来ておりますし、新しい先生方も加えて益々充実するものと思われます。更に、帖佐教授は宮崎大学全体のテーマでもあるスポーツ・メディカル・サポートの推進役としての活躍が期待されています。

同門から黒木先生、谷島先生が開業されました。御盛業と伺っております。厳しい社会情勢ですが後進の目標ともなりますので、頑張ってください。

中央では経済状況が好転しつつあるとのニュースはあっても、地方に迄影響が現れるのはまだまだ先のことです。医療現場から見ますと様々の「医療改革」が為されても好転したような兆しは全く感じられません。先に述べました様に4月からは診療報酬の減額改定が行われました。全く根拠の無い、納得のいかない改定です。開業をされている同門諸兄には本当に大変な事態が到来しつつある事を実感として受取られていることでしょう。そのような状況下では、何をさて置いても医師本人の健康が第一です。患者さんの健康管理のみでは無く、自分と家族の健康をもしっかり管理していただきたいと思ひます。

同門会活動の一環として目的である親睦を図るのは勿論ですが、教室からの援助をお願いしながら会員互助が出来ないものかと模索をしております。皆様方からの建設的な御提案を期待いたします。



巻 頭 言



新入教室員歓迎

帖 佐 悦 男

昨年度は、JRの脱線事故や宮崎では信じられない台風被害など災害の多い年でありました。被害に遭われた方々にあらためてお見舞い申し上げます。

さて、新入教室員を迎える桜の満開の時期は、今までも新しい先生方を教室にお迎えすることができ嬉しいものでした。しかし、この平成18年度の新入教室員歓迎は、私のみならず教室・同門の先生方皆様方が今までにもまして待ち望んでいたのではないのでしょうか。ご存知のように新臨床研修制度が発足して、はじめての修了生の年になるからです。新進気鋭の先生を7名、ベテランの整形外科の先生を2名、博士課程の大学院生として中国からの留学生と理学療法士の先生も迎えることができました。また、病院には理学療法士が1名配属になりました。本当に有難うございました。このことも教室・同門の先生方が一致団結して頂いたからだと思っております。

若い医員の先生方は、希望に満ち溢れた新たな出発点となりましたので、夢と目標をもって診療・研究また後輩の教育にあたって頂きたいと思っています。臨床に関しては、まず専門医をとり、その後少しずつスペシャリティを考え、もちろん研究に専念したい場合、大学院へ進むことも貴重な体験になります。是非、セミナーなどには率先して参加してください。ベテランの先生方には、豊富な知識と技術を伝授すべく教室員の指導をよろしくお願い致します。

新臨床研修制度により、研修医が中央の病院へと集中したため、地方では公的病院・民間病院のみならず大学病院も医師不足のため、関連病院への医師の派遣が不可能となり、地方の病院、しいてはその地域の患者さんに不安な思いをさせることになっております。私たちも同様に苦境に立たされましたが、幸い教室・同門の先生方のご理解・ご支援によりなんとか乗り切ることができました。ご協力頂きました先生方に感謝致します。

実際、この制度により、国立大学で定員が充足されたところは数えるしかなく、ましてや3割や2割も切っている大学もあるようです。本学の充足率は最悪ではありませんでしたが、もともと地元出身者の学生が少なかったため以前より本学に残る卒業生は少ない上に、今回の改悪でさらにダメージを受けました。対策としまして、宮崎県出身者が10名以下の学年もあることや、地元出身者は比較的宮崎県に残っているという実績をもとに、本年度より地域枠の推薦入学が開始されました。一県一医大制の初期の目的を考えますと全く取り組みが遅いと言わざるを得ませんが、実施しないよりましではないでしょうか。他の方策も早急に考える必要性を痛感しております。

多くの先生方に入局していただきましたが、ご存知のように県内の中核病院への派遣や開業される先生など他の要因も加わり医師派遣の要請には充分お応えできない状況が続いております。何とかこの状況を打破できるよう皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

また、教室の事務職員として2名勤務していただいておりますので、あわせてよろしくお願い致します。

さて、大学の方は、統合後大学の機構が変わり、感覚運動医学講座整形外科学分野と名称の改変がありました。また、5月より大学で開発されました新しい電子カルテシステムがスタートし、忙しい日々をおくっております。まだまだ、慣れないためご紹介頂きました患者さんにご迷惑をお掛けしており、申し訳ございません。

また、平成17年は田島名誉教授の念願でもありました日整会の野球大会で優勝し、先日ありました大会でV2を達成することができました。このことも選手の活躍はもとより学会期間中病院を支えてくれました先生方の協力があったからのことです。有難うございました。

最後になりましたが、新たに入局していただいた先生方を加え、教室員の和を大切に、質の高い臨床・研究を実施し、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科系講座として貢献したいと思っております。そのためにも、教室・同門の先生方のご指導・ご鞭撻を、これまで以上によりよろしくお願い申し上げます。

目 次

ご 挨拶	河 野 雅 行	
巻 頭 言		
新人教室員歓迎	帖 佐 悦 男	
玉井達二先生を偲んで		
玉井達二先生を偲んで	住 吉 昭 信	1
玉井学長を偲びて	木 村 千 仞	3
玉井達二先生を想う	田 島 直 也	5
玉井達二先生を偲んで	帖 佐 悦 男	6
故 玉井先生の思い出	河 野 雅 行	7
玉井達二先生を偲んで(思い出)	伊 勢 紘 平	8
玉井達二先生を偲んで	武 内 晴 明	9
玉井達二先生との出会い	岡 田 光 司	10
医 局 長 挨拶		
医局長挨拶	関 本 朝 久	11
新入医局員歓迎		
入局おめでとうございます	税 所 幸 一 郎	13
新人医局員のみなさんようこそ整形外科教室へ	園 田 典 生	14
大 学 近 況 報 告		
リハビリテーション部近況報告	鳥 取 部 光 司	15
脊椎班の近況	久 保 紳 一 郎・黒 木 浩 史	16
上肢・スポーツ班近況報告	矢 野 浩 明・河 原 勝 博	17
下肢班の近況	坂 本 武 郎	18
関 連 病 院 近 況		
宮崎県立延岡病院	栗 原 典 近	19
近 況 報 告	黒 沢 治	20
大江整形外科病院	魏 國 雄	21
同 門 会 ・ 医 局 行 事		
医局旅行について	河 原 勝 博	23
祝 日本整形外科学会親善野球大会初優勝	関 本 朝 久	24
平成 17 年度 西日本野球大会を終えて	関 本 朝 久	27
祝 全国大会初出場!!		
日本整形外科学術集会サッカー大会九州ブロックC予選会	山 本 惠 太 郎	29
第 14 回 同門会ゴルフ大会	安 藤 徹	32
第 8 回 同門会テニス大会	神 蘭 豊	33
第 1 回 同門会マージャン大会	田 島 卓 也	34
第 1 回 帖佐杯ゴルフ大会に優勝して	森 田 信 二	35

新規開業

新規開業にあたって	黒木龍二	36
新規開業にあたって	野辺達郎	38
新規開業にあたって	谷島満	39

新入会員紹介(賛助会員)

ご挨拶	押川達巳	41
よろしく願い致します	池之上貴	42
入会のご挨拶	藤元登四郎	43

新入会員自己紹介(正会員)

	菅田耕	44
	比嘉聖	44
	福田一	45
	樋口誠二	45
	近藤梨紗	46
	河野勇泰喜	46
	小牧ゆか	47
	花堂祥治	47
	木屋博昭	48
	弓削七重	48

同門会総会議事報告	49
-----------	----

教室同門の研究業績	51
-----------	----

編集後記	68
------	----



玉井達二先生を偲んで

宮崎大学長

住吉 昭信

昭和48年10月1日国立宮崎医科大学創設準備室が、船塚町の旧宮崎大学内に設置され、宮崎医科大学長予定者に、九州大学名誉教授勝木司馬之助先生と副学長・病院長予定者に熊本大学名誉教授玉井達二先生が発令されました。昭和49年1月に全教授予定者を宮崎に招集し、初の顔合わせ、清武の大学建設予定地の見学と説明会がありました。私は事情があつてそれに参加出来ませんでした。それで先生に初めてお目にかかったのは昭和49年6月7日、開学の時辞令を貰う席でありました。どちらかという童顔で、メガネの奥に温厚な眼差しを見ることができました。私が学生時から可愛がって頂いた九州大学整形外科教授天児民和先生は、九州大学に赴任される前には新潟大学で教鞭を執っておられ、玉井先生は新潟大学のご出身で、天児先生のお弟子さんと伺っていましたので、ことさらに親近感を持ったのかも知れません。

先生は、宮崎医科大学の副学長・病院長を昭和49年6月7日から55年6月30日までお勤めになり、昭和55年7月1日に学長に昇進され、61年3月31日までお勤めになりました。その間のお付き合いの印象を元に先生を偲んでみたいと思います。当初は医科大学の創設に加えて、特に病院の建設に主導的役割を果たされましたが、先生は、研究室や診療の在り方と病院建築に独特の考えをもっておられ、研究棟が廊下を挟んで左右非対称となっているのは、ど

うやら先生の発想のようでした。文部省の意向との説明でその設計図が示された時、激しく異を唱えたのが石川教授（第1生化学）と私で、玉井先生に石川教授と私が同行して、九州大学にある文部省工事事務所を訪ねました。工事事務所の担当者は、開口一番「宮崎医科大学の人は、どうしてこのようなアンバランスな設計が好みなのでしょうネ」といわれ、唾然としたことを昨日のこのように覚えています。九大前の食堂で、一皿のカレーライスをおごって貰って、建築に取りかかる時期的なことを含めて、先生の説明を聞いている内に、先生の粘り勝ちで、それでいくことを納得させられて仕舞いました。病院建築では、各科の病棟と外来を同じフロアーにするというコンセプトで、端的に申しますと、これは医師に楽をさせ、患者の動く動線を長くする設計で、今では批判されましようが、当時はそれで良かったのかも知れません。

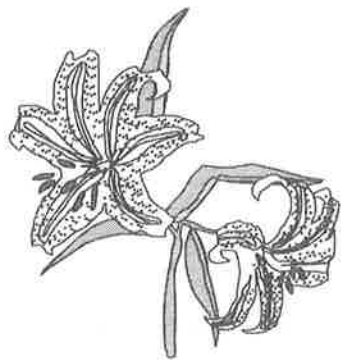
しかし病理解剖室を含む病院病理部は、本来病院の中に在るべきであるという私の主張を呑んで頂いて、しかも中央手術部の中に、迅速病理診断室も設けて頂きました。「旨くやりましたね」という皮肉ともとれる発言を、田仲教授（第1内科）に頂きましたが、宮崎医科大学の病院病理部のあり方は、その後の医科大学の病理の人達に羨ましがられたものです。この考えは今も色あせていませんで、これは玉井病院長に先を見る目が有ったからだ、私はとても感謝致しております。

無から新しいものを作り出すことはとても難しいことで、これはその様な立場にあった人でないと理解し得ないことと思います。確かな海図が無いまま、しかも、勝木学長は、ウルム大学のハイルマイヤー教授の唱える「一つ屋根の下で」という方針を支持しておられたので、出身大学を異にし、多士済々の、教養教育に携わる人と医学部出身の人が集まる教授会では、議論百出で、皆の意見を聞き纏めていく作業は、並大抵のことでは無かったと推察されます。その過程で、先生は先生なりに、忍耐強く、誠心誠意取り組んでおられ、勝木学長の信頼は絶大なものがありました。そのことから皆の信頼を勝ち得て、2代目学長にすんなりと決まったことは頷けるところであります。そしてご自分の理想に近い医科大学をお作りになり、その後の発展を後輩に託されました。

先生にとってお気の毒なことは、皆さんご存じの「ヘルペス後の疼痛」でありました。病院長としてのご多忙が祟って(?)か、帯状ヘルペスに罹患されました。その後疼痛は断続し、後では持続するようになり、日大の権威に節ブロックをして貰うため入院されましたが、麻酔で低血圧が出来し、ショック前状態となり、ブ

ロックをされないままお帰りになりました。その痛みがお亡くなりになるまで先生を苦しめました。「痛みが無いのは、お風呂に入っている時だけだよ」と仰っていたのが、今も耳に残っております。本当にお気の毒でした。急性びまん性肺線維症については長くなりますので、割愛いたします。

私は、執行部の方針にしばしば異を唱え、先生にとっては不倶戴天の教員の一人であったと思いますが、先生には終始変わらぬ態度で接して頂き、熊本にお帰りになってからも、暑中見舞いや年賀状はもとより、私の病理学教授退職時、病院長就任や医科大学の幕引きの時、新宮崎大学の創設・学長就任の時など、案内をお出しする度に、自筆のハガキか電話で、出席出来ないご返事と共に、何時もお祝いの言葉や励ましのお言葉を頂きました。先生は宮崎医科大学の行く末を何時も心にかけておられ、分け隔てのない、博愛の人であったことは、先生がハンセン病患者の診療に情熱を傾けられたことから分かることであります。本当の「医師」であり、「師」であられたことを偲びながら、つたない文を綴り、衷心より先生のご冥福をお祈り致します。合掌。





玉井学長を偲びて

木村千仞

旧制宮崎医大の第2代学長 玉井達二教授が亡くなられて一年忌を迎えるに当り、熊大・宮医大・熊本総合医療福祉学院、そして熊本機能病院顧問まで45年間、同じ職場で仕事をさせて頂き、いろいろと薫陶を受け得た幸せに感謝申し上げる次第である。

今、玉井先生の一年忌を迎えるにあたり、在りし日の思い出の一部を辿ってみたい。

先生は、第二次大戦中に旧新潟医大を卒業され、海軍軍医として南方派遣となり、兵站地診療所で軍医1人当たり200人位の傷病兵の診療に当たった苦労話を聞かされたのを思い出すが、想像に余りある悲惨な状況であった様である。

戦後は、郷里新潟医大整形外科に戻られ天児民和教授、河野左宙教授のもとで研さんを積まれ、異色なのは「open Drop法による全身麻酔法の検討」なるお仕事で、のちの日本麻酔学会創設の基盤の一つになったとも聞いたことがある。

次に、昭和29年に国内の幾つかの医学部・医大に整形外科学講座が新設されることになり、玉井先生が熊大の初代主任教授（38歳）として赴任され、私は翌30年に入局（新設大学院）したわけである。先生は学生時代陸上競技短距離の選手であったと聞いていたが、テニ

ス・野球・ゴルフと多才な方であったし、若さと活力が時代の波にのって若い人も集まってきたと思われる。永年の先生とのお付き合いから学び得た事は数えきれないが、忘れていることもあるので幾つかあげてみたい。

1) 先述の麻酔の件で、入局当時は挿管全麻は未だ日本に入っておらず、小児から老人に至るまで全麻は手術、骨折・脱臼の整復にopen Dropエーテル麻酔を全医局員が玉井先生の指示で習熟施行された。麻酔中は瞳孔、血圧、血液の色を見たらエーテル点滴量を麻酔医が加減するわけであるが、手術が2～3時間以上に亘ると、ときに麻酔医が洩れたガスを吸って眠くなり、術者から「Blutが黒いぞ！」と叱られることもあった。昭和33～34年頃から気管内麻酔が日本でも導入され、我々が麻酔から解放されたのは嬉しかった思い出である。

2) 骨の自生力

第1例は若年者（年齢不詳）の上腕骨幹部2/3ほどを切除して腓骨と移植置換したレ線像で、成人時の同部が健側と殆んど同じ位の上腕骨に成長していたスライドを見て骨移植の素晴らしさに驚いた症例を覚えている。多分、良性腫瘍例であったのだろうが、骨移植

の有用性に感激したものである。

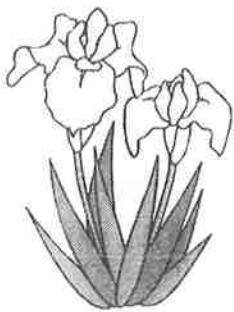
第2例は大腿骨骨幹部骨折でキュンチャー釘を打込んだ例で、10年以上経過したX-Pでは骨折は不明となり治癒しているが骨幹部骨皮質が極端にうすくなっている例を見せて貰った。これは、多分、荷重の大半の役割をキュンチャー釘が果していた為、大腿骨として重要な荷重への反応が薄れた為の退化現象であろうと想像した。

これらは、骨が生き物であり、金属はあ

くまでも異物であることの証拠で、100%役割をとって代ることは出来ない証拠を教えて貰った気がする。KU compression plateの発案も骨の生物学的特徴を考えての結果であろうと類推している。

その他、沢山の事を我々に教えて頂いたが、忘れないうちに別の機会に記したいと思う。

やがて、一年忌を迎えるに当たり、先生のご仁徳に感謝申し上げたい。





玉井達二先生を想う

田 島 直 也

私が長崎大学時代、玉井先生は熊本大学教授で、私にとっては全く雲の上の人であり、学会でお見かけする事はあっても遠い存在の先生でした。その後、宮医大創設準備にあたられ、宮崎医科大学設置後は、副学長、病院長に御就任されました。昭和54年11月、私が宮崎医大（当時）に助教授として赴任した時、先生は副学長であり、その時から先生と親しく接する事が出来、御指導、御助言を頂きました。

私が期待と不安で宮崎医大に来て、初めて先生にお会いした時、先生は非常に温かく迎え入れてくださり私の不安もなくなり、先生の下で私も精一杯頑張ろうと決意を新たにしたいのを憶えています。私が赴任した時、先生は大学の前の官舎に住んでおられ、私はそのすぐ横の官舎に住むことになりました。お宅に御挨拶に伺った時「君はベッドは用意しているか」と尋ねられ、まだ用意してない由お話すると「私のがあるから使いなさい」と言われ、先生のベッドを譲ってもらい、以後、玉井先生のベッドを使用することになり、現在も大切にしています。

私がお世話していた同門会のゴルフ大会には、カップがないだろうとカップを寄贈して

頂き、以後玉井杯として行われるようになりました。

玉井先生は、宮崎市郡整形外科医会にも殆ど毎回出席され、宮崎での整形外科発展に御尽力頂きました。私共も、いざという時は玉井先生に色々御相談し、適切なアドバイスを頂き、方向を決める上での先生の存在は、非常に大きかったと思います。

私が平成2年に教授に内定し、熊本の御自宅に御報告に伺った時、本当に心から喜んで頂き、私も感激した事を昨日のここのように憶えています。

先生は学長をされていた時からヘルペスに罹られ、疼痛に苦しまれ、種々の薬効、効無く最後まで疼痛がおありだったと思います。しかし、私共と会う時は、決して表情に出されなく平然とされていらっしゃいました。

先生にはまだまだ長生きして頂き、先生のお話を伺い、御指導を仰ぎたかったのに残念でなりません。先生、本当に長い間有難うございました。ごゆっくりおやすみ下さい。

合掌



玉井達二先生を偲んで

帖 佐 悦 男

玉井達二先生が、お亡くなりになられ一周忌を迎えましたので、『玉井達二先生を偲ぶ』をつづり在りし日の先生を偲びたいと存じます。玉井先生の輝かしい御略歴は、皆様御存知のとおりです。昭和48年の宮崎医科大学創設準備の頃から深くかかわられ、昭和49年6月に宮崎医科大学副学長になられ、病院完成後は附属病院院長として附属病院の基礎固め・発展にも寄与されました。昭和55年7月から昭和61年3月まで学長をお勤めになられ、本学の発展に多大な功績をあげられました。

宮崎医科大学整形外科学教室と玉井先生の関係は、先輩方がお述べになるとお思いますので、私は私が入局しましてから先生との思い出を振り返ります。

私が入局しましたとき（昭和59年）、玉井先生は学長先生であり、雲の上の存在でした。また、先生は宮崎大学整形外科学教室の同門会にも入会して頂き名誉会員になって頂いておりました。新入医局員の歓迎会や忘年会に体調が思わしくなくお忙しい中でもご出席頂いていたと先輩より伺っておりました。その当時は、もちろん私は玉井先生にご挨拶をするのが精一杯でした。その後、大学でお会いしました際に、優しい笑顔でお声をかけて頂いたことを昨日のことのように思い出されます。

また、先生は常に心配りをされておられました。研究会でお会いした際も常に同門の先生のお名前をだされ気にかけて頂いたり、教室も同

門の人数が増えてきて、ゴルフ大会のご案内を差し上げましたところ、先生からすばらしい優勝カップをご寄贈頂き、玉井先生のご功績を讃え玉井杯として継続されました。私が医局長になりましてから、先生に新入医局員歓迎会や忘年会などの行事の際、ご連絡させていただきましたが先生と奥様の体調が許されお時間があるときはご出席頂き、ありがたいお言葉をかけて頂きました。また、ご出席いただけない場合も、いつも直筆の真心のこもったお手紙やお祝いなどを頂きかえって恐縮致しておりました。ご出席頂きました際は、常に若輩者の私たちにも心配りをして頂き、今でも先生が特別講演をして頂いた時のことが思い出されます。講演に際しお座りになられたままお話し下さいとお願い致しましたが、ご高齢にもかかわらず講演中ずっと立ったまま時々私たちの方に近づいてこられ、非常に興味ある話題をととてもやさしい眼差しで語りかけるようにお話を頂きました。整形外科歴史に残るプレート、リハビリテーションやハンセン病などに関する多くの功績があるにもかかわらず、真摯で謙虚な姿勢にはいつも頭が下がる思いでした。

このように玉井先生は、医学者としてのみならず文化人・社会人としても尊敬すべき先生であり、先生に対する尊敬の念と私たちを導いて頂きました感謝の気持ちを持ち続けることを誓い、一周忌に際し、故人の数々のご遺徳を偲び、衷心より哀悼の意を表します。合掌。



故 玉井先生の思い出

河野 雅行

早いもので玉井先生がお亡くなりになって一年が過ぎようとしております。

先輩の話によりますと若い頃の玉井先生は相当厳しい面も有られた様ですが、宮崎医科大学副学長として宮崎に赴任された時分には、穏やかな温かい人柄で私共に接していただきましたのでスマートな紳士としての印象しかありません。先生のお立場から其れ程頻りに接点があった訳ではありませんが、先生を偲ぶのに、一つのエピソードを御紹介いたします。

昭和51年頃のある日、副学長室から幾つかの文献を片手にふらりと教室にお見えになりました。「他の分野の科学雑誌を読んでいたら面白い物を見つけたよ。自然環境の汚染度を人の顔で表現する方法が有るそうだ。整形外科の分野でも何かに利用できないものかね。誰かやってみませんか？」その時、研究室には数人の教室員が居ましたが、何と無く私が指名された様な按配で、取り組む羽目になりました。始めは、グラフなら兎も角データを漫画みたいに図形化するなどと抵抗もありましたが、何とか臨床に関連付ける方法は無いかと煩悶。丁度、日整会では様々な関節の普遍的な機能評価基準を作りつつある頃でした。それを、当時未だ一般化していなかったパソコンでグラフィック表現出来ないかと、玉井先生と木村先生にご相談申し上げたところ御承認を得ました。とは言った

ものの、当時のコンピューターは数千万円単位の巨大なものしか無く、如何に取り組むかと悩みましたが、偶々“米国アップル社から超小型の廉価な物が発売されたらしい、それはグラフィック機能もあるらしい”との情報を耳にしました。そこで早速、機械を直接輸入してみました。本体は容量も小さくベーシックでしか動きません。当時は未だゲーム等も無く現在の様な市販されたソフトは皆無でした。マニュアルを読みながら自分でプログラミングしたのをテープに保存して行くしか方法は有りません。試行錯誤を繰り返して何とかパソコンで図形を描かせることに成功しました。その後も適時、玉井先生と木村先生のご指導を受けながら最終的には結果を日整会で発表し、臨床整形外科雑誌に「股関節機能評価フェイス・メソッド」として発表することが出来、喜んで頂きました。

これは玉井先生を巡るほんの一つのエピソードにすぎませんが、管理職になられてからも常に情報収集に努められ一見何でも無い様な事柄をヒントにされて、斬新なアイデアの生まれる柔軟な頭と真摯な態度を持たれる科学者としての姿勢には感服いたしました。

常に私共の先導者・目標でいらっしやいました先生の御遺徳を偲んで駄文を記しました。

合掌



玉井達二先生を偲んで(思い出)

伊勢 紘 平

玉井先生が亡くなられ、早くも一年が過ぎようとしています。私にとりましては整形外科を専攻しようと考えて以来の恩師でもありました。子供の頃からピッコをひいていた私の足の事を本当に考えて頂いた大恩人であった先生でもありました。

子供の頃は、皆さん方も御存知のように変股症は疼痛は余りないものです(特に、完全脱臼によるものでは)。大学の2年の時に、歩行時にガクンとする感じがはじまりまして、熊大整形外科を受診させて頂いたのが、整形外科の先輩の先生方とのお付き合いのはじめでした。当時、玉井先生は英国へ留学中であり、お世話になりましたのは、北川先生をはじめとして当時の股関節グループの先生方でした。最初の手術は、皆さんご存知のdisplacement osteotomyでしたが、その時の主治医の先生から「伊勢君、手術後の事については、三つの道がある。一つは、とても良くなったという道、次は余り変わらなかったという道、最後は、悪くなったという道なんだよ。」という話を頂きました。今でいうインフォームドコンセントです。残念ながら、私の股関節は疼痛が残った為に固定術を受けましたが、私にとってはすごく良かったと思っています。大学卒業の時には既に玉井先生も教鞭をとられておられました。

進路を決める時に、玉井先生に、「私でも整

形外科医がつとまるでしょうか？」というふうにお聞きしました時に「つとまるとかつとまらないの話じゃないね。本人にやる気があれば、それが一番なんだ」といわれた事を今でも思い出しています。結局玉井先生は、「何事をするにも本気で立ち向かう気持が大切なんだ」という事をおっしゃりだかつたんだと思っています。昭和49年に宮崎医科大学を立ち上げる時に、「伊勢君、宮崎に行かないか」というお話を玉井先生、それに初代教授の木村先生からいただき、49年の9月に宮崎に赴任した訳ですが、その後、玉井先生は整形外科を離れられ、宮崎医大(現宮崎大学医学部)の充実の為の仕事をされておられたのですが、いろんな問題が持ち上がると真っ先に玉井先生に御相談させて頂いたものです。先生の基本的な軸は「全員がうまくゆく為には、どう動くのがbestか」という事ではなかったかと思っています。すべての方面にうまくゆくという事は、本当に至難の業ですが、聖徳太子の「和を以って尊しと為す」の精神だったのかなと今考えています。

玉井先生に、いろんな教えを受けましたが、こんなに早くお別れするとは思わなかったものですから、玉井先生には我儘ばかりいわせて頂きました。本当に済みませんでした。

遠くでお笑いになっているかも知れませんが御冥福をお祈りしています。



玉井達二先生を偲んで

武内 晴明

玉井先生は高潔で素晴らしい人格の紳士であられた。玉井先生の思い出は多数ありますがまず、最初の思い出としては、私が、初めて西日本整形災害外科学会に「先天性両側性脛骨欠損症の一例」という演題で発表するため、玉井先生にご教示賜りたく、先生の部屋に（当時は宮崎医科大学副学長）お伺いした時、超多忙にもかかわらず、分厚い先天性疾患の本を取り出して熱心に教えて頂いたこと。しかも、その本を私に勉強しなさいと言って貸して頂いたことを思い出します。残念ながらドイツ語で書いてあったので十分理解できませんでした。次に新設大学で医局員が少なく、多数（多数といっても高々10名程度）の主治医になって不満を言っていた時、玉井先生は自分は戦時中、南方の前線に派遣されていたが、100人以上の主治医として朝から晩まで働いていたというお話をされ、それ以降は、受け持ち患者が多くても余り不満を言わなくなった。ただし骨肉腫だけはそれでも主治医になりたくないと思っていたことを思い出します。

それから、宮崎医科大学の学長に就任されてから、東九州玉の子会というゴルフコンペが定期的で開催されていましたが、コンペの数日前に必ず私に「武内君、今度のコンペに君も出なさい」とお電話があり、私は、当時ゴルフを本格的にやっていたわけではなく、SCOREも120前後であったので（現在は仕事半分、ゴルフ半分）一応お断りすると、玉井先生が「君が出ないと困るんだよ」と懇願されるので、結局は参加することになったのだが、そのうち、玉

井先生のねらいはブービー賞をとることであると分かった。

最終ホールになると、玉井先生がわざわざ18番ホールのグリーン・エッジに引き返してきて（玉井先生は一番偉いのでいつも最初の組でラウンドされていた）、私の最終ホールのパットをしゃがんで真剣に見ておられたが、SCOREが同じくらいの時（なぜ同じくらいのSCOREを把握されていたのか不明）私がパットをはずすと立ち上がってガッツポーズをとられていたことを思い出します。私は、こんな偉い先生もゴルフになると人の失敗を喜ぶのかなと不思議に思っていました。

偉いといえば、自分の弟子を5人も整形外科の教授にされた事でしょうが、この事については、他の先生が書かれると思います。

その他、本当にすごいと思ったことは、玉井先生が帯状疱疹に罹患され、その後の激しい神経痛があるにもかかわらず、宮崎医大の卒業式のとき、学長として、卒業生の全員と一人一人握手をされたとのこと。実は、帯状疱疹の皮疹の出る前に右の肋間神経痛があると言われ、私が最初に診察させて頂き、軽い気持ちで鎮痛剤を処方しましたが、この時、早く皮膚科（井上勝平教授）を受診して頂くようにしておけば良かったのにと後悔しています。

玉井先生の素晴らしい業績のみならず、素晴らしい人格に触れさせて頂き、言葉では尽くせない薫陶をお受けした事を心から感謝しております。玉井先生のご冥福を心よりお祈りしております。



玉井達二先生との出会い —よい思い出をありがとうございます—

岡田光司

玉井達二先生にお会いしたのは昭和46年頃と思いますが、それは当時熊本大学で先生のサリドマイド障害（身体機能障害）についての講義を受けた時です。下腿骨折手術を中学生時に体験した私は当初から整形外科志望でしたので、先生の自由な雰囲気での身振り手振り豊かな体を駆使しての講義を興味深くまた真面目に聴いたものでした。

そして先生が開設準備中の宮崎医科大学副学長として赴任されておられた昭和51年、宮崎医科大学整形外科教室の入局について当時熊本におられた先生にご相談申し上げましたところ、宮崎医科大学整形外科教室の木村千仞助教授を快くご紹介いただきました。そのような経緯で私は昭和51年7月に宮崎医科大学整形外科教室に入局した次第です。

先生は昭和61年3月まで副学長（病院長）そして学長という立場で大学の運営にご尽力されておられ、我々の整形外科教室に関わる事はあまり無かったのですが、我々にとっては整形外科の大先輩ということで事あるごとにご相談することが出来、心強い支えとなっていました。また症例検討会、講演、卓話などでは整形外科に限らない示唆に富んだお話を間近で伺う事が出来たこともありがたいことでした。熊本にお帰りになられた後も同門会の名誉会員として、度々宮崎にお越しいただき、同門会、ゴルフ大会などに参加されておられましたが、その折にはご自身の体験された困難な境遇にもめげない先生の明るい快活なご様子にいつも敬意の念を抱いたものです。

また私は先生のおそらく最後の手術を受けた患者としてもお世話になりました。昭和54年頃、バレー練習中に不覚にも左アキレス腱を断裂してしまい、経緯は不明ですが先生が執刀されました。局麻下の横皮切での腱縫合術ということで当時の医局長の伊勢先生をはじめ全局員（7～8名）が見学のため手術場に集まったのですが、術中は私は誰にもかまってもらえませんでした。仕方が無いので血圧変動と気分不良を目安に自分で腹臥位のまま輸液の調節をせざるを得なかったという侘しい経験をさせていただきました。術後数年間は何かにつけ先生から「具合はどうか」、「術創はどうか」とスラックスの裾を上げては問診と術創の視診を所構わず受けたものでした。その都度「何も問題ありません」と答えてはいましたが、実際、野球、ゴルフ、ランニング……と現在でもノープロブレムで、先生のご執刀にありがたく感謝しています。

昭和63年の同門会誌創刊号に玉井先生より「同門会誌の創刊によせて（よい思い出を！）」の特別寄稿をいただきました。そこでは人生には多くの出会いがあり、よい思い出、悪い思い出があるが、よい心くばりによって皆でよい同じ思い出をたくさん持つ事の大切さが述べられています。先生とは平成17年7月31日の熊本でのお別れの会までのおよそ35年間出会いのご縁を持たせていただきました。整形外科および人生の師として、よい思い出を頂いたと心静に感謝するばかりです。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。



医局長挨拶

関本朝久

この度、本年も医局長を務めさせて頂くことになりました。歴代医局長のように務め上げることができるか非常に不安ですが、精一杯頑張りますので何とぞよろしくお願い申し上げます。同門の先生方にも色々ご迷惑をおかけすることと思いますが何とぞご容赦下さい。昨年は様々なことがありました。最も心に残ったことは、私たちの大先輩であり、第二代学長の玉井達二先生が御逝去されたことです。謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。また台風被害、悲しい事故・事件が相次ぎ、一昨年に続き災害の多い年でした。安心・安全確保のための危機管理が特に求められた一年だったと思います。本年は、世の中が、天災・人災等の災害のない平穏な年であることを切に願っております。

さて、帖佐悦男教授新体制がスタートし、2年が過ぎようとしております。本年は帖佐体制の進むべき方向を明確にし、教室が発展可能な礎を構築し始めたいと願っております。昨年の教室の行事としましては、例年通り第50回、51回宮崎整形外科懇話会、第32回、33回宮崎県スポーツ医学研究会を開催し、三水会は150回を迎え、記念講演会を開催いたしました。また、さまざまな日整会単位が宮崎県内で取得できるように第1回ひむか骨関節脊椎脊髄疾患セミナーを開催しました。今後は年2回開催の予定です。教室員のみを対象としたMIS股関節アプローチセミナー、ガンツ先生を講師と

した人工股関節セミナーも大変好評でした。新入教室員歓迎会も盛大に行われました。また、第1回帖佐杯も開催されました。医局旅行は看護部バレーボール大会を兼ねた青島温泉旅行でした。2階東病棟は見事優勝し、楽しく盛り上がったひとときでした。日整会全国野球大会では悲願の初優勝をかざり、その出場権をかけた西日本野球大会では、5年連続となる出場権を得ることができました。教室の現状といたしましては、折からの新臨床研修制度の導入で、関連病院の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりますが、昨年はこの新入局が大変困難な中、弓削孝雄先生、弓削七重先生に御入局頂きました。そして今年は花堂祥治先生、小牧ゆか先生、菅田耕先生、近藤梨紗先生、比嘉聖先生、福田一先生、樋口誠二先生、河野勇泰喜先生の8人に御入局頂きました。本当にありがとうございました。皆さんを教室員として迎えられたことは、誠に大きな喜びであります。今後の活躍を心より期待いたします。

私自身と致しましては、医局長に就任して1年3カ月が過ぎました。この間、様々な出来事が発生し、歴代医局長の先生方大変なご苦勞を痛感しております。また、私は3年前から伝統ある宮崎大学整形外科野球チームのキャプテンも勤めております。皆さんのお蔭で、昨年悲願の日整会全国大会初優勝を成し遂げることができました。これまで医局長と野球キャプテンを兼任された先生はいらっしゃいませんが、二

足のわらじで中途半端と言われぬよう、今後も精一杯頑張っていこうと決意しております。

最後になりましたが、現在のように様々な変革が起きようとする中、荒波を乗り切るために一番大切なことは、同門の皆様が一致団結し、ゆるぎない基盤を確立することだと思います。相互の信頼と協力、尊敬と感謝、そして思いやりがなければ成り立たないと思います。皆さま方のご健康とご多幸そして宮崎大学整形外科教

室の躍進を祈念して、挨拶と代えさせていただきます。本年も教室員一同が一致協力し、気を引き締めて、安全で良質な医療の提供を維持しながら、この困難な時節を乗り切るよう頑張っている所存です。まだまだ行き届かない点多々あると存じますが、教室員のため、教室運営のために精一杯頑張っておりますので、本年も何とぞご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。





入局おめでとうございます

国立病院機構都城病院
統括診療部長

税 所 幸一郎

今回入局された先生は新研修医制度の前期研修を終了された方や、ほかの診療科に就かれた後に心機一転、整形外科を勉強しようと思われた方でいらっしゃると思います。整形外科について学生時代には骨関節の局所のみを診るマイナーな診療科のイメージがあったかもしれませんが、現在は交通外傷に代表されるような全身管理を時として必要とする診療科の一面も持っています。また整形外科では運動器疾患（＝リウマチ性疾患）を取り扱ったり、術後の後療法をも行ったりしますのでリウマチ学やリハビリテーション医学についても、広く学んでいかなければなりません。また最近新聞などでよくみられると思いますが、診療費改定などの時には手術件数とか、〇〇科の専門医であるとか、〇〇科の専門研修を受けたかなども問われています。

それに対して、私たちは専門領域である整形

外科学会はもちろんのことですが、リウマチ学会、リハビリテーション学会などにも積極的に参加し、知識を得るとともにそれらの分野でのエキスパート（＝専門医）になることも必要ではないかと思えます。また大学は研究機関でもあります。国内外での研修・研究は新しい領域に目を開くという意味で非常に大切かと思えます。幸いなことに帖佐教授をはじめ多くの先輩方が海外や国内の大学・研究施設に留学され、幅広く交流をもたれておりますし、留学については同門会からの協力もあります。今回入局された先生方がこのような環境の下で専門的に整形外科を研修・研究され、新しい知見を宮崎から発するような、すばらしい整形外科医になっていただくよう微力ながら応援させていただきたいと思っています。今後の先生方のご活躍を期待いたします。





新人医局員のみなさん ようこそ整形外科教室へ

藤元早鈴病院 整形外科

園田典生

新入医局員のみなさん、この度は帖佐教授率
いる宮崎大学整形外科教室へようこそ。

入局にあたってはいろいろと迷われたことと
思います。それ以上に教授をはじめ、医局長
のS先生はどうしたら先生方を引っ張りこめる
かを悩み、苦勞されたのです。他の教室と比
較すると多数の先生が入られたのですが大学
から離れはや3年目、いかに整形外科医が足り
ないかを日々、実感しながら毎日の診療に追
われています。それだけ整形外科医の需要は
県内満たされていないのが事実だと思います。
これから、先生方がいろいろな症例を経験
されて県内の整形外科の医療へ貢献して
いただけることを切望します。

教授が理解ある方ですので先生方が将来、
希望する道へ進めるようにご指導いただけ
るでしょう。そのためにも医局員としての義
務もあると思います。これは学生時代とは
違って一人前の社会人として周りから見ら
れるわけですので当然なことです。教室制
度の問題について一時期、いろいろと注
目されていましたが私個人としては特に
外科系教室の上下関係は必要で
徒弟制度（以前も何かの機会
でこの言葉を使ったかもしれ
ませんが）でなければ下は育
たない。そのためにも教室制
度は必要と考えています。
こんなことを言ったら先生
方はご自身を自分たちは
丁稚か？と思うかもしれ
ませんが丁稚

なのです。手術の技術などは教科書
をみても身につけません。先輩
方の技術をみて、盗んで、怒
られて身につくものです。そ
のためにも上に認められ、か
わいがられるようになってく
ださい。何も難しいことでは
ありません。普通に一生懸命
やっていたら大丈夫です。普
通にやれない人は適当にしか
上はみません。実際の診療
以外の雑用や人事など教室
の指示に愚痴を言いたくな
るときもあるでしょう。でも
、それも自分自身のためと思
い頑張った人は必ず、その
姿を上は見ています。医師
として17年目に入り、私
の下で働いていただいた先
生方の先輩にも様々な先生
がいましたがやっぱり一生
懸命にやっていた先生には
何か先輩風を吹かしたくな
ります。（迷惑と
思っている先生もいるで
しょうが、ねえK先生、
がんばってよ）私自身も
私が研修医時代、3年目・
4年目と未熟な時期に指
導いただいた先輩方（親
方）には特に頭が上がり
ませんし、今も公私にわ
たりご指導いただいで
います。これは非常にあ
りがたいことでこの先
輩方との関係は一生
続くものと考えて
います。

ぜひとも先生方には
周囲の上の先生方に
認められ、充実した
整形外科医としての
経験をつま
れ、早く関連病
院で激務をこな
している我々を
助けていただけ
るよう祈願して
おります。がんば
ってください。

大学近況報告



リハビリテーション部近況報告

鳥取部 光 司

リハビリテーション部は、平成14年4月1日付けで、省令による中央診療部としてのリハビリテーション部となりました。(この詳細に関しましては、昨年の同門会誌に書かせていただきました。)これに伴い、専任医師と作業療法士が認められ、さらに平成18年4月より理学療法士1名の増員となり、現在のリハビリテーション部の人員構成は、部長(整形外科科長兼任)、副部長(リハビリテーション部講師兼任)、理学療法士3名、作業療法士1名で診療訓練にあたっています。リハビリテーション部で扱った患者数は平成15年度6747人、平成16年度9189人、平成17年度11570人と増大傾向にあります。増員により、従来はマンパワーの不足から訓練の困難であった外来の患者さんのリハビリを施行する余裕ができており、整形外来再診数の増加へ貢献できるようになってきております。本年度の診療報酬改定に伴う当院のリハビリテーション施設基準は、脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)、運動器リハビリテーション(Ⅰ)、呼吸器リハビリテーション(Ⅰ)となっております。リハビリテーションの利用

状況は、半分以上が整形外科疾患の運動器リハビリテーション(Ⅰ)としての利用であり、他科からの依頼は全科に渡っておりますが、脳卒中、その他の疾患による廃用症候群が主で、脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)での利用となっております。

リハビリテーション部に設置してある特徴的な医療機器として、三次元動作解析装置、KIN-COM筋力測定器、足圧力分布測定システムなどがあります。帖佐教授の御指導のもと研究が進められておりますが、特に赤外線を使ったリアルタイムな動作分析やビデオ画像から動作分析が可能な三次元動作解析装置による各疾患やスポーツなどにおける動作分析の研究が期待されております。

私がリハビリテーション部に配属されて早3年が経ちましたが、リハビリの世界は奥深く、まだまだ私の勉強不足を痛感する日々でございます。同門の先生方には日頃より御指導・御鞭撻を賜りまして心から御礼申し上げます。どうぞ今後とも御厚誼の程、何卒宜しく願い申し上げます。



脊椎班の近況

久保 紳一郎
黒木 浩史

早いもので田島直也名誉教授がご退官され、同時に後藤啓輔先生が野崎東病院へ出向されてから丸3年が過ぎました。その間少ない人数でなんとか毎日の業務をしのいだ時期もありましたが、現在その後帰局されました濱中秀昭先生が持ち前のセンスと努力でメキメキと実力をつけ、さらに本年5月から脊椎脊髄ベテラン選手の花堂祥治先生にも加わって頂きようやく大学病院らしい層の厚い診療体制が整ってきました。

研究面では昨年、黒木浩史先生が日本脊椎脊髄病学会の基礎部門で大正富山アワードを受賞されその成果が認められました。また本年6月には「後方頸椎手術の進歩」をメインテーマとして第65回西日本脊椎研究会を当教室にて主催し、われわれも発展著しいこの方面の臨床研究成果を発表する予定です。

臨床におきましては脊椎内視鏡のブームには乗り損ねてしまっておりますが、今のところ

手術用顕微鏡の立体感ある視覚情報に勝るものではないとの考えで皮切の小ささよりも神経組織への低侵襲・安全第一を目指した治療を心掛けています。以前に比べますと大学病院では頸椎症例や合併症の多い高齢者の症例が圧倒的に多くなり普通の若い方の腰椎椎間板ヘルニアは稀な症例になりました。しかしたとえ危険性が高くても改善の可能性が残されなかつ患者さんからの強い要望があればその願いを叶えるべく積極的に手術を考慮し大学病院の役割が担えるよう皆一致団結し診療に臨んでいます。

できるだけ多くの手術をこなすよう日々努力しておりますが、病床数は限られその上最近では重症例の増加も相俟って入院待ちがおよそ1か月となっております。また手のかかるリハビリテーションをお願いする事もあろうかと存知ますが先生方には御理解の上、御協力を賜りますよう今後とも宜しくお願い申し上げます。





上肢・スポーツ班近況報告

矢野 浩 明
河原 勝 博

現在スポーツ班と上肢班は第16号でも記載致しましたとおり、2000年1月に旧スポーツ班と旧上肢班が合併して早6年、診療に厚生面に仲良くやっております。

診療面においては、17年7月から石田先生が戻られ、その後18年1月～3月まで『船橋整形外科』で、肩関節鏡等を学んでこられました。河野先生は17年3月～6月まで『東京手の外科スポーツ医学研究所高月整形外科』で手の外科の研修し、更にパワーアップして帰ってきました。それぞれ研修で得られた最先端の治療を患者さん並びにメンバーに還元してもらいながら以前にも増して頑張っています。また18年4月から田島卓也先生が加わり、ローテーションとして4年目の小牧ゆか先生、新入局の樋口誠二先生が研修され、総勢8名と最大派閥下肢班に迫る勢いです。(BMIでは最大派閥ですが……)

手術においては上肢では多岐にわたっており先天性疾患・神経疾患・腫瘍・外傷etc.において悪戦苦闘しつつ頑張っています。スポーツ関係ではACL、PCLの再建術および半月板損傷、骨軟骨損傷など関節鏡手術が中心です。また昨年7月からは石田先生が肩における

腱板損傷や脱臼後の不安定症に対する鏡視下手術も行われ最近その数も増加傾向にあります。

研究面では河原が今年から夜間大学院に進学し、同じく大学院でトレーナーをされている佐藤啓壮先生とともに動作解析を中心の研究を進めています。

診療外では田島先生がラグビーの日本代表帯同、山本・河原が国体の帯同を行い、医局の先生の協力で県強化選手などのメディカルチェック、国際青島太平洋マラソン、宮崎女子ロードレース、シーガイアトライアスロンなどのサポート、プロ野球やサッカーのキャンプ時のバックアップなども行っております。

厚生の方面も都域名誉部長(園〇先生)の号令のもとで開催される親睦会も年に数回有り、大学を離れても絆が強く、楽しく過ごしています。これからも、どんどん輪が広がって仲良くさらに前進できるようがんばっていただけたいと思います。

今後も関連病院や同門の先生方の御協力を得ながら症例を重ね、良い成績を残していくよう日々努力していきます。よろしくお願いいたします。



下肢班の近況

坂本武郎

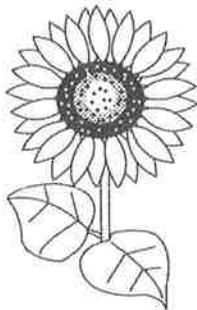
下肢班は現在、帖佐教授の指導の下、私のほかに渡邊信二、関本朝久、濱田浩朗、野崎正太郎、前田和徳、中村嘉宏、船元太郎、比嘉聖、近藤梨紗の計9名で頑張っております。

対象疾患は、もちろん下肢全般ですが、股関節の関節温存手術、人工股関節置換術、人工膝関節置換術を中心に再置換術、骨転移などの腫瘍性病変も増加しております。

病棟や手術室のひんしゆくを買いながらも手術を無理やり詰め込んでがんばっている状態ですが、まだまだ消化しきれず、現在の入院待ちは約8カ月という状態です。

関連病院の先生方には、多数の患者さんを紹介していただくのに、入院までに日数がかかったり、また術後の急な転院などで多大な迷惑をおかけしております。

今後ともよろしく申し上げます。



関連病院近況



宮崎県立延岡病院

栗原典近

県立延岡病院は昭和23年9月1日開設で、平成10年4月から現在の新病院となって病床数は460床であり、宮崎県北で最大で唯一の総合病院です。病院敷地は27694.61㎡、愛宕山の麓にあり、旭化成、ジャスコがすぐそばにあります。

医師は52名で内科、循環器科、精神科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリテーション科、周産期センター、救命救急センターと多岐にわたり、地域住民のニーズに応じています。また、院内で脳神経センター、心臓血管センター、消化器センターを開設し、科を超えた診療の試みも行っています。

救急当直は2人で、1次救急から3次救急まで受け入れ、別にICU、HCU、NICU当直が各々常時対応しています。

症例は県北のあらゆる地域から紹介され、特に多発外傷など救急車搬送は年間300例を超えています。

整形外科はご存知のとおり熊本大学の関連病院で、昨年まで木屋博昭先生をはじめとする5名の熊本大学の医師と、宮崎大学からはH17年7月から1人増え、2名の計7名で診療を行ってきました。今年からは八代総合病院から小田勇一郎先生を科長に迎え、熊本大学3名、宮崎大学から帖佐教授のご厚意で2名増の4名となりました。

整形外科の外来患者数は平成16年度は延べ29000名、一日平均120名となっています。

病床数は60床で、一時期人事の変わり目で減少していましたが、また元に戻りつつあります。

手術件数は昨年までは木屋先生が人工関節を行っており、年間THA63例、TKA145例と県内一番の症例を誇っていました。外傷も、頸部骨折に対しガンマネイルをはじめとする骨接合が90例、人工骨頭が60例など年間計400例ありました。脊椎手術も年間50例行っており、他に関節鏡、靭帯再建なども行っています。回ってくる先生方にとっては多岐にわたる症例を短時間に経験でき、かなり勉強になる病院だと思っています。

急患が多いため、ガンマネイル、人工骨頭などは受傷翌日、場合によっては当日に準緊急手術として行うこともあります。

麻酔については、腰椎麻酔は自科で行っていますが、以前あった麻酔科問題もほぼ改善し、麻酔科医は常勤3名で全身麻酔も問題なく行われています。

なにぶん平均年齢34歳と、急激な若返りをしたばかりで周囲の先生方にはご迷惑をおかけすることと思います。大学病院の先生にも手術のご相談、紹介をさせていただくことになるかと思っています。これからも県北の機関病院として、がんばって参りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



近況報告

黒 沢 治

近況報告とのことですが今回初めての寄稿依頼ですので病院報告も併せて行いたいと思います。

ここ三股病院は日向市美々津町にあり太平洋を一望できるところにあります。また、病院の南側を石並川が山間から海へ流れています。(写真を見てください。) 近隣の海岸はサーフィンのベストロケーションで、よくサーファーがケガをして駆け込んできます。(私も機会があればサーフィンを始めようかな?) 病床は57床で一般病床24床、療養型病床33床です。スタッフは外科をしている理事長と整形外科をしている院長と最近来られた内科の医師と私の4名です。その他、非常勤の医師が3名来られています。また、PTが1名おり主に整形外科の患者さんをみてもらっています。施設としては病院のほか、歯科医院、グループホーム、デイケアがあります。病院は57床規模のため、スタッフの配慮が隔々へ行き届いている印象があり(看護や入浴介助など)、特に給

食は山菜や刺身、赤魚の煮込みなど家庭料理風で大変おいしく、私は昼食に給食を頂いているのですが、いつもこの給食が楽しみです。当院へ来院する患者さんの大半は、高齢者です。当院の勤務が1年半過ぎて私も患者さんとも大分顔なじみとなりました。最近、高齢者に対する整形外科診療はこれまで行っていた診療スタイルとやや異なると感じ、診察内容や処置など高齢の患者さんが喜ぶ診療は何かと考えながら仕事を行っております。又近隣の病院のつながりでは、日向医師会に所属していますが、それとは別に若手会という食事会を兼ねた飲み会があり、これは日向医師会に所属している年齢層の若いいろいろな科のドクターの集まりの飲み会で、ここでいろいろな情報の交換や紹介患者などの話ができ、楽しく又いろいろ勉強になり大変重宝しております。

最後に大学の先生方には毎週当直に来ていただき大変助かっております。この場を借りて感謝申し上げます。





大江整形外科病院

魏 国 雄

★ビデオの無料サービス（ナースセンターにビデオデッキが置いてあり、患者さんは枕元の一覧表から見たいものをナースコールで注文する。）：★高さの低いベッド（ヒザの高さくらいの低いベッドで、お年寄りや足の悪い方に好評）：★受付カウンターや電話に椅子：★電話を各部屋に：★ベランダをすてきに（三階の中庭を見下ろせる広いベランダに、ガーデンテーブルとチェアを配置し、夕涼みやひなたぼっこを快適に）：★全員個室（イメージとしては、ビジネスホテルのような小ぎれいな病院がいい。やはり大部屋では、患者さんのプライバシーが守れない。医療法上全部個室代をいただくわけにはいかないが、普通の個室とデラックスな個室に分け、デラックスな個室だけ個室代をいただく。）

以上、院長の著書、「中年よ、小志をいだけ」から引用加筆訂正したものです。本院の病院のコンセプト（著書の中の大江先生の言葉を借りれば……「ぼく自身が、入院したらこうしてほしいと思うわがままなサービス」）がよくわかるかと思います。大部屋（四人部屋）2室、二人部屋2室以外は、全室個室、そのうち無料個室が1/2を占めます。

真っ正面に、椰子の木とプールを配置した中庭が目に入るエントランス、アイランドソファ・絵画を中心としたすっきりした壁面・間接照明の天井・総ガラス張りの中庭……といった道具立ての南洋風のリゾートホテルを思

わせる待合いホール。

最初赴任して、そのハード面の病院としての先進性にびっくりしたものです。できるだけ居心地のよい居住性を重視した病院となっています。

大江整形外科病院は、病床60床の整形外科単科病院です。創立は昭和36年、整形外科草分けの時代の創業といった歴史を持っています。

又、理学療法士を4名配置し、各種の保存的療法・術後療法とも、充実したりハビリテーションを行える体制となっています。

超音波は、整形外科領域において、もっとも急激に進歩している、画像診断技術です。Bモードだけをとりましても、★ビームの高周波化とフォーカシング高能化による探触子の高分解能化・★広範囲の撮像領域を可能とするパノラマ画像・★CTのような多方向スキャンすることにより組織の分解能を高めるコンパウンドイメージング・★反射エコーの二次高調波成分を利用することによりアーチファクトを低減するハーモニック法などにより格段に組織の描出能力が高くなってきております。

こういった進歩にかんがみ、病院側のご理解を得て、（大江先生の深いご理解を得て）従来あった超音波機械にかえて、最新のハイエンドの超音波診断装置を導入することができました。

これにより、従来機では、描出しにくかった

足関節の距腓靭帯もはっきり描出できるようになりました。近くには、小中高校が、集まっており、スポーツ外傷の診断に非常に役立っています。また、外来で多くみられる肩関節周囲炎に対しても、その病態把握と的確な治療を可能にしてくれています。時には、文献にもあまり見られないような、珍しい軟部組織の病態に遭遇することもあります。

超音波に関心を持たれる先生方との情報交換を楽しみにしております。

最後になりましたが、教授の帖佐先生をはじめ、教室の諸先生方に、いろいろな面で、バックアップをいただき、感謝しております。今後ともよろしく申し上げます。





医局旅行について

厚生課係長

河原 勝博

医局旅行は山本厚生課長の元、一昨年鹿児島・指宿、昨年は韓国・ソウルが好評で、16年度から係長に任命されました私はプレッシャーの中、夏前からアンケートを取り準備しましたが教授のスケジュールが厳しく週末の土日の旅行とのことで九州内の旅行が有力視されました。ただ観光も面白くありません。大学内きってのグルメ（自称）としてはなんとしてもこの旅行をグルメツアーにするべく旅行会社から見積もりを取り、値段の交渉や料理の内容の交渉を連日行いまして、〈別府温泉と魚づくしツアー〉に決定し意気揚々と2階東病棟へ相談に行くとなんと付属病院看護部のミニバレー大会の日程と重なることが判明し看護師さんはそちらに出られるとのことでした。（事前に日程を十分詰めていない私の未熟さを痛感しました……）

ここで医師のみの参加も検討しましたが「若い看護師さんのおらん宴会はつまらん……」という天の声が聞こえたかどうかわかりませんが……別府温泉グルメツアーをキャンセルし、〈ミニバレー観戦と温泉・伊勢えびツアーin青島〉と変更しました。（宮崎交通の担当の方申し訳ありませんこの場を借りてお詫びします。）

平成17年10月15日 朝 大学の体育館で各

部署の看護師が集まり、ミニバレー大会が行われました。我が2階東病棟は帖佐教授・関本医局長を加えた口撃陣の援護射撃を受け、強豪を次々と撃破し、決勝でもICUを破り優勝を飾りました。

その後選手は会場を青島パームビーチホテルに移し温泉で汗を流しました。その他の先生も個々の仕事を終えそれぞれホテルへ集合しました。

夜の宴会は医局旅行にミニバレーの優勝祝勝会も加わり、ドクター18名、看護師14名病棟クラークの田崎さんを含め33名で行われました。帖佐教授の挨拶、久保講師の乾杯で始まり、青島どれの伊勢海老に舌鼓を打ちながら日々の忙しさを忘れ盛り上がりました。

2次会はホテル内のカラオケルームと前田先生のだれやみ部屋に会場を移し、それぞれ再度盛り上がり夜は更けていきました。

翌日はホテルの朝食を各自取り、家路・海・ゴルフ・その他に別れ休日をエンジョイしました。

今年は新入局員も大勢入り、教授・医局長から充実した旅行を企画するようミッションを頂いております。今年はりベンジしてがんばりたいと思います。

祝 日本整形外科学会 親善野球大会初優勝

一軍キャプテン

関本朝久

平成17年5月14日、田島名誉教授により25年前に創設された我々が宮崎大学整形外科教室の野球チームが、遂に永年の夢であった日本整形外科学会親善野球大会の全国制覇を成し遂げることが出来ました。これは一重に今まで御協力頂きました多くの皆様方のお陰だと心より深く感謝申し上げます。ただでさえ当直のやり繰りが大変なのに私達を野球大会に気持ち良く送りだして頂いた諸先生方の御支援、御協力に何より感謝申し上げます。いつも思うのですが、野球大会の勝利は教室員全員での勝利です。私はキャプテンとしてこの機会に恵まれ、チームメイトに胴上げしてもらったことを生涯忘れることはありません。

平成17年の日整会全国野球大会は5月12日から15日の日整会期間中に横浜スタジアムを中心に開催されました。初の全国制覇を目指して例年通り2月より週2回、土曜早朝、日曜夕方方の練習を開始しました。2月の朝練は満月の光が眩しかったです。昨年の大会は、久しぶりに我がチームの永遠の4番・松元先生が復活し、総勢14人で臨むことができました。私のキャプテンとしての2回目の日整会大会でしたので、一昨年の経験を生かして、大会前は多数の練習試合を消化しました。また例年気になっていることなのですが、シートノックでのキャッチャーフライもほぼ決められるようになっていました。このように昨年は例年になく準備を整えて日整会野球大会を迎えることができました。

日整会野球大会は全国の8ブロックの代表の16大学によるトーナメント戦です。前夜祭では毎年懇親会と組み合わせ抽選会が行われます。昨年も各大学のかくし芸が催され、我がチームは3年連続で三橋先生が会場を大爆笑の渦に巻き込んでくれました。その大爆笑の後に抽選会も行われました。1回戦は、中・四国代表の鳥取大学でした。我々は9回目の全国大会で、1回戦で止まるわけにはいきません。昨年の全国大会は、何としても全国大会制覇を目標に14人全員一丸となって臨みました。

1回戦：鳥取大学（三橋・池尻・福嶋）10-1
初戦は中・四国代表の鳥取大学との対戦でした。九州大会でも対戦の経験があり、この試合は久しぶりに安藤先生先発で行く予定でした。しかしながら試合直前に安藤先生の調子が上がらず、急遽三橋先生先発で臨みました。突然の先発変更で三橋先生にはとんでもない迷惑だったでしょうが、この試合直前のトラブルでも余裕をもってシート変更の対応ができたことは、本当に強いチームになったと感じた一場面でした。試合は初回、いきなり小菌先生の先制2ランが飛び出し、5点先取しました。一方的な試合運びで10-1の大勝でした。終盤に帖佐教授、そしてよく練習に来ていただいた渡邊先生にも打席に立って頂いて本当によかったと思います。

2回戦：琉球大学（松岡・矢野・福嶋）4-3

この試合は抽選会の時点で最も厳しい試合になると思っていました。先発は満を持してエース松岡先生で臨みました。試合は初回、エラー絡みで先制を許しましたが、すぐにその裏タイムリーで追いつき、2回裏にも追加点、3回裏には、またもや今大会2本目の小園先生の2ランが飛び出し、4-1とリードする展開でした。この時点で相手の元気がなくなり、楽な試合運びかと思っていましたが油断大敵です。これまで何度も痛い目を見てきました。案の定、終盤に徐々に追加点を挙げられ、矢野先生にリリーフをお願いしました。最終回、1点差に迫られ、尚も2アウト3塁のピンチで、しかも相手は3番バッターでした。嫌な予感がしましたが、矢野先生の気迫あふれる投球で、見事三振に切って獲りました。琉球大学のこの粘りは敵ながら感心しました。私はこの琉球大学の粘りを振り切れた時点で、優勝を強く意識しました。

準決勝：順天堂大学（三橋-福嶋）7-1

2年連続で準決勝敗退という悔しい思いをしている為、なんとしても勝って決勝に駒を進めなければなりません。対戦相手はこれまで何度か全国大会で対戦している順天堂大学でした。この試合は三橋先生を先発にしました。初回いきなり先制アーチを許し、中盤まで0-1でしたが、中盤に打線が爆発し4回裏に一拳5点を挙げ、7-1で勝ちました。この試合も、終盤に帖佐教授、渡邊先生、そして河原先生にも打席に立って頂いて本当によかったですと思います。いよいよ8年ぶり2度目の決勝戦に駒を進めることができました。平成9年の決勝戦は、札幌で金沢大学に惜敗したのを思い出しました。準決勝は三橋先生ひとりで投げ切ってもらって、投手陣の負担が少しでも軽くなったと思います。しかしながら、この試合で、不動の4番・松元先生、チームの要、キャッチャー・福嶋先生が負傷してしまいました。この時点でチーム

の疲れはピークだった様な気がします。

決勝：札幌医科大学（松岡-矢野）2-1

決勝戦が行われた横浜スタジアムは、テレビで見る以上に人工芝のグリーンが鮮やかで、観客席も見上げるくらいに大きく圧倒され、電光掲示板も夕日に映えてとても綺麗な球場でした。実際にプロ野球シーズン中に、同じ場所、ナイターで試合をすることができてとても感動しました。皆、この場に立てたことだけで、それまでの疲れが吹き飛んだことと思います。決勝戦の相手は一昨年1回戦で対戦した札幌医科大学でした。一昨年は5回までに0-4とリードされ、終盤の驚異的な粘りで一時は5-4とリードしましたが、最終回に追いつかれ、ジャンケンでの勝負となりました。またこのジャンケンも2-4と相手にリーチをかけられてしまい、今度こそはと覚悟したのですが、そこから奇跡の3連勝でとうとう5-4で勝利したチームにとっての歴史的な1勝でした。

決勝戦は不動の4番・松元先生、チームの要、キャッチャー・福嶋先生が負傷していました。福嶋先生は試合出場もできませんでした。松元先生は脚を負傷しており歩くことさえもままならなかったのですが、私はこれまでチームを支えてきてきた松元先生を外すことは微塵も考えていませんでした。この試合は、もちろんエース松岡先生で臨みました。この試合は初回に先取点を挙げ、4回にも追加点で2-0と押し気味で進めていましたが、ダメ押しができず、2-1で7回裏となりました。最終回も2アウト3塁まで粘られましたが、最後は松岡先生が最後のバッターを三振に獲りました。その瞬間、これまでのいろいろな事が思い出されました。とうとう念願の全国制覇です。それまでのいろいろな事がこれで報われたような気がします。試合直後に田島先生、帖佐先生を胴上げ出来て本当に感動しました。大優勝旗はずっしりと重く、これまでの想いが詰まっていると

感じました。

全国大会優勝した日の打ち上げの際に、悲願の全国制覇を期して私が来期もキャプテンをさせて頂くこととなりました。これまで田島教授、歴代キャプテン、そしてチームメイトが築き上げて来たすばらしい伝統を汚すことのないようまた精一杯ガンバッテいこうと決意しました。私のキャプテンとしての2度目の全国大会で不慣れな点多々あり御迷惑をかけて申し訳ありませんでした。また皆私のサインに首を振ることなく従ってもらって本当にありがとうございました。そして河原先生、スコア付けや皆の移動の世話など本当にありがとうございました。河原先生のおかげで私は試合に集中することができました。そういえば今大会のシートノ

ックでのキャッチャーフライは、私と黒木浩史先生で全試合1本目で決めることができました。最後になりましたが、ただでさえ当直のやり繰りが大変なのに私達を野球大会に気持ち良く送りだして頂いた諸先生方の御支援、御協力に心より感謝申し上げます。いつも思うのですが、野球大会の勝利は教室員全員での勝利です。今後ともいろいろと御迷惑をおかけすると存じますが何とぞよろしくお願い申し上げます。今後はこの初優勝にうめぼれることのないよう、改めて気を引き締めて行きたいと決意いたしております。最後になりますがこの度の初優勝におきまして、全国制覇記念会を企画して頂きました教室OBの先生方に心から御礼申し上げます。



平成17年度 西日本野球大会を終えて

一軍キャプテン

関本朝久

平成17年5月に横浜で開催された全国大会は、悲願の全国制覇を成し遂げることができました。その日の祝勝会の際に、全国連覇を期して私が次期もキャプテンをさせて頂くこととなりました。改めて田島教授、歴代キャプテン、そしてチームメイトが築き上げて来たすばらしい伝統を汚すことのないよう精一杯ガンバッテいこうと決意しました。全国大会の後、早速8月のこの大会に向けて、それまで通り週2回、土曜日早朝と日曜日夕方の練習を始めました。そして今回も練習試合を納得のいくまで消化して大会に臨みました。しかしながら去年は、異動や当直などでなかなか人数が集まらない状態でした。そのような状況の中、キャプテンとしてチームをまとめる事ができるのか、大会前からとても気がかりでした。私はこの不安の中、いつも通り過去数年のチーム全員のデータ解析、メンバー交代のパターンやサインなどを考えることで気を紛らしていました。

全国大会出場の切符を賭けた西日本野球大会は、平成17年7月、鹿児島大学主管で鹿児島県営鴨池球場を中心に開催されました。この大会は九州・山口地区の12大学のトーナメント方式で行われ、決勝戦に勝ち上がった上位2チームが翌年の全国大会の出場権を獲得できます。昨年、初の悲願の全国制覇を成し遂げた我々はここで止まるわけにはいきません。前夜祭では毎年懇親会と組み合わせ抽選会が行われます。昨年の西日本大会は最低でも全国大会の切符を目標に、そして来られなかった先生方の

分を皆で少しずつカバーするつもりで12人全員一丸となって臨みました。しかし去年は前日からの激しい雷雨が気がかりでした。

1回戦：福岡大学(矢野・石田・三橋-池尻)

5-2

この激しい雷雨の中、グラウンドは田んぼ状態でした。皆、まさかこの状態で試合はないだろうとウォーミングアップを十分に行いませんでした。これはアップを急がせなかった私の責任でした。今後の反省点です。試合開始予定30分前に突然雨は止み、予定通りの試合開始となりました。早朝からの激しい雷雨で大きな水溜りができ、足場はぬかるんでグラウンドコンディションは最悪でした。

初戦は十分慎重にいかねばなりません。先発は矢野先生にお願いしました。しかしながら、相手チームのうまさいきなり2点先制されました。嫌なムードになりかけたのですが、ここで皆が踏ん張ってくれました。流れが向こうに行かないうちに、その裏すぐに連続タイムリーで同点に追いつき、3回、6回と追加点を挙げ、結局5-2でした。雷雨の中、3人のピッチャーには厳しい条件の中、よく踏ん張ってもらいました。またこの試合突然キャッチャーをお願いした池尻先生のリードと試合の流れを変える3つの捕殺、そしてタイムリーヒットは本当にお見事でした。お陰でチームが引き締まりました。この時点で次の試合に向けて、全員の準備が万全となりました。

結局昨年夏の鹿児島大会は激しい雷雨の影響で、この時点で中止となりました。この大会の運営そして大会中止の決定をめぐって、主管の鹿児島大学の先生方は大変ご苦労様でした。この大会は翌年の日本整形外科学会全国野球大会の出場権を賭けた大会ですので、大会後も大変なご苦労があったことと存じます。なかなか出場校が決まらない状態で、キャプテンとして私の夏は終わっていませんでした。

そのような気分が晴れない状況の中、11月上旬に全国大会出場権獲得という最高の知らせが届きました。結局、昨年出場校が出場することになりました。お陰様で何とか今年の全国大会の切符を手にすることができました。その時ようやく肩の荷が下りた気がしました。今年の夏は本当に長かったです。チームの皆も本当にご苦労様でした。チームのキャプテンを勤めて3年目なのですが、これまでの田島教授、歴代キャプテンの気苦労を改めて痛感した次第で

した。また宿泊、交通、飲料水準備、スコア記録など、私たちが試合に集中できるように数多くの雑用をしていただいた、河原先生、温水さん、本当にありがとうございました。そして何よりも、ただでさえ当直のやり練りが大変なのに私達を野球大会に気持ち良く送りだして頂いた諸先生方の御支援、御協力に心より感謝申し上げます。いつも思うのですが、野球大会の勝利は教職員全員での勝利です。今後ともいろいろと御迷惑をおかけすると存じますが何とぞよろしくお願い申し上げます。

今年の全国大会はいよいよ5月に横浜で開催されます。いつものように現在週2回の練習を行っています。そういえば昨年の本番のシートノックのキャッチャーフライは、シートノックがなかったのでできませんでした。今年は全国連覇が果たせるようチーム一丸となってガンパッテいこうと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。





祝 全国大会初出場!! 日本整形外科学術集会 サッカー大会九州ブロックC予選会

サッカー部主将

山本 恵太郎

昨年から日本整形外科学術集会親善大会としてサッカー大会も行われるようになり、今年第2回大会では念願の全国大会出場を勝ち取りました。

時は平成18年3月5日、場所は清武町総合運動公園、天気は快晴。

今回は大分大学・鹿児島大学と争いました（総当たりリーグ戦にてトップ1校に全国大会切符をゲット）。ルールは前回同様で、8人制・ハーフコート・20分ハーフ制・年齢制限（30歳以上が4人、そのうち最低40歳以上が1人常時出場）・フリー交代制などの特別ルールの元に行われました。

今回は地元開催という事と前回の悔しさを糧に絶対勝ち上がる意気込みで新人4名と秘密兵器1名を加え総勢14名で挑みました。

注目は何と言っても前回最悪の試合順を引き当てた抽選会（3チームのリーグ戦では組み合わせが最重要??）。今回は……といきたかったのですが、主管校ということで残りくじに。そこで、“残り物には福がある！”という格言通り、今回は最高の1・3試合目を引き当てて、自分の行いの良さに感謝した次第でした。

（1試合目大分vs宮崎、2試合目大分vs鹿児島、3試合目鹿児島vs宮崎）。結果は、

- ① 宮崎4-0大分（得点）森2、三橋、大倉
- ② 大分4-1鹿児島
- ③ 宮崎5-0鹿児島（得点）樋口誠二、
福田、深野木、園田、森

宮崎大学は得点9、失点0の非の打ち所の無いゲームで全国大会出場権を獲得しました。

今回は、

40歳代：園田、野中

30歳代：山本、大倉、森、深野木、公文、
吉川大輔、樋口誠二

20歳代：三橋、小島、比嘉、菅田、福田

の計14名の参加でした。新人では、兄貴不在の代役で活躍した樋口誠二先生はサッカー経験者でしたが、見事なドリブルシュートを決めた福田先生、相手を破壊しそうな比嘉先生、波乗り菅田先生とサッカー未経験者もしっかり出場・活躍してくれました。もう一人、今回の目玉はワッキー（芸人・ペナルティ）のロナウジーニャ並の雰囲気醸し出していた深野木先生。スローだけど相手がカットできないドリブルを披露し得点も上げましたが、キャプテン翼の三杉くん並の体力が弱点!?

楽しくサッカーができ、他校とも親睦を深めることができました。

メンバー詳細や写真などはHPへアクセスして是非観てください（宮崎大学医学部・大学院医学系研究科<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/>→宮崎大学整形外科<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/ortho/default.htm>→課外活動→サッカー部）。

この結果、5月に開かれる日本整形外科学術集会での親善大会に野球ならびサッカーが出場でき非常に喜ばしいことになりました。しか

し、選手の派遣に伴い関連病院の先生方には多大なご迷惑をお掛けし大変申し訳なく思っております。親善大会での健闘のみでなく、学術集会でも最新の知見を得て整形外科医として有意義な学会になるよう頑張ってきますので、今後とも宮崎大学医学部整形外科サッカー部へのご支援・ご出場のほど宜しくお願い致します。



<<速報：全国大会>>

5月17日から横浜で開催された第79回日本整形外科学術集会で、親善サッカー大会も開催されました。

- ・40歳以上：帖佐教授、園田、樋口潤一、野中
- ・30歳代：山本、大倉、森、樋口誠二
- ・20歳代：小島、比嘉、菅田、福田の計12名の参加でした。

1回戦で九州大学と対戦し、園田・樋口潤先生のゴールで2-0とリードするも、そこから

逆転され2-4で敗退しました。帖佐教授も選手登録しユニフォーム着用していましたが、接戦のため出場することができず、結果ともども残念でありました。しかし、全国の経験を積み、また早々と敗退したことにより学会にもしっかりと参加でき非常に有意義な4日間でありました。ご支援誠に有り難うございました。

今後は二連覇した野球部に少しでも追いつけるよう本業ともども頑張りたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。





第14回 同門会ゴルフ大会

安藤 徹

平成17年12月4日清武町のレイクサイド G.Cで第14回同門会ゴルフ大会が行われました。この大会は例年5月に行われます帖佐杯（以前は田島杯）と並んで整形外科同門の先生方がごぞってゴルフの腕を競われる大会でもあります。私も入局後12年目を迎えましたが、研修医の頃よりほぼ毎年参加しており、この同門会ゴルフ大会では平成8年、15年の2回優勝することができましたが、最近ではベテラン、若手の先生ともにゴルフを本格的にされる先生方（特に益〇先生、森〇先生）も増え、なかなかいいスコアを残しても優勝することが難しくなっている印象です。

今回はほぼ同じ世代の川野先生、河原先生と同じ組でラウンドさせていただきました。お互い気心が知れ、ゴルフスタイルもわかっているせいなのか、緊張感、刺激がまったくなく、スコアはそれほど良くありませんでしたが、ダブルペリア方式にうまくひっかけ、22名と多数参加の中見事3回目の栄誉を頂くことができました（やはり同伴競技者のおかげでしょうか？）。

今後もゴルフをライフワークならぬ、ライフスポーツとして楽しみながら続けていきたいと思えます。ベテランの先生方、今後ご指導、ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。





第8回 同門会テニス大会

神 菌 豊

毎年11月23日(勤労感謝の日)は、同門会テニス大会開催日です。平成17年の同日も快晴の元、第8回大会が尾田先生、弓削孝雄先生、福田先生、川野啓一郎先生、松本先生、渡部先生の同門の先生と県病院の高妻先生、他2名が参加して開催されました。

この日、私は9時前、早々にエントランスプラザのテニスコートに行ったところ、すでに弓削孝雄先生がコートの周りを走っておられました。テニスの前には走ったほうが良いと言われるままに私も3周ほど公園周囲をジョギングしているうちに川野啓一郎先生、福田先生、松本先生、渡部先生が到着され、練習を行った後、競技開始となりました。ところが優勝候補の尾田先生が来ない。どうしたのかと電話したところ、単なる寝坊とのこと、結局練習なしで競技をすることになりました。ルールは誰かとペアーを組んで4ゲーム先取の試合を5試合ほ

ど行い、取ったゲーム数を得点とし、加算するものです。前大会まで優勝者が一部の参加者(松本先生や尾田先生等)に限られていたことから今回からハンディキャップを設け、優勝するとマイナス2ポイントが課せられるようになり、前回優勝の松本先生はハンデ2で競いました。結果は私と渡部先生が同ポイント、同点の場合は年齢差で高齢のものが優勝ということでやや複雑な心境ながら初出場の渡部先生の優勝を阻止(これが嬉しい)、参加8回目にして初優勝することができました。今大会は弓削先生が肘の痛みを訴え、尾田先生は起き抜けのテニスで体にまったくキレがなく、松本先生はペアリング等の幹事の仕事が忙しかったなど、あまり実力を出しきれなかった選手が多く、そんな中、準備運動万端、何の気兼ねもなくプレーできたのが良かったようです。さて次回も多くの先生方の参加を期待しています。





第1回 同門会マーじゃん大会

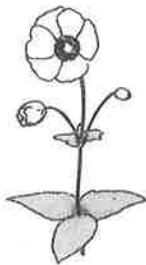
田 島 卓 也

マーじゃん好きな同門会員の先生方のかねてからの要望に応じて、平成17年12月3日に第1回同門会マーじゃん大会が開催されました。

忘年会1次会が終了後、ホテル近くの雀荘にほろ酔い気分の腕に覚えのある8人の雀士が集まりました。今回の参加者は、河野雅行先生、税所幸一郎先生、弓削達雄先生、神菌豊先生、渡邊信二先生、江夏剛先生、猪俣尚規先生と田島卓也でした。参加者が少ない気もしますが、第1回目ということで様子見の先生や、翌日のゴルフが気になる先生が参加を見送られたようです。今回のルールはありあり、2卓に分かれての半チャン2回戦。その後、メンバーを順位順にシャッフルしての半チャン2回戦で、合計4半チャンでの総得点を競うものでした。真剣に戦う者、久しぶりのマーじゃんを楽しんでいる者、緊張している者、アルコール追加で思考

が鈍っている者とさまざまでしたが和やかな雰囲気と少しの緊張感がたまたま心地いい空間でした。

歴戦の猛者たちの緻密な計算と読み、経験をぶちこわしたのは不肖田島のパワフルツキ・ドラマーじゃんでした。読み違いや待ちの悪さであろうとこの夜のツキはそれを吹き飛ばす勢いで、圧倒的な速さとドラ爆弾でアガリ、4半チャン終了時には合計点数で他を引き離し優勝させていただきました。ツキだけだろうが、ドラ頼みであろうが、勝ち勝ちということで、胸をはらせていただきたいと思います。ただ、これまで圧倒的に分が悪かった神菌先生と直接対決せずに優勝してしまったので、神菌先生の恨めしそうな目が心に焼き付いています。次回は神菌先生を直接破って、2連覇を達成したいと思います。





第1回 帖佐杯ゴルフ大会に優勝して

森 田 信 二

栄えある第1回帖佐杯優勝の栄誉をいただき、まことにありがとうございました。それもこれも一緒に回っていただいた川越先生、神蘭先生、長田先生方の温和な雰囲気因るところが大きかったと思います。ところが困ったことに当時の記録がありませんので詳しい報告ができません。ただ、帖佐先生が準備してくれたカップがとても大きかったことはよく憶えています。

ということで代わりと言っては何ですが私のゴルフに対する考え方を少し述べさせていただきます。少し常識からははずれていますので軽く読み流して下さい。誰が言ったか「給料は我慢の対価」と言う言葉を聞いたことがあります。これはいろんなスポーツにも当てはまり、特にゴルフにはぴったりのような気がします。ラウンド中にはいろんな我慢が必要になります。気の合わない

人とのラウンド、ティショットでドライバーを使わない我慢、セカンドでグリーンでなく花道に刻む我慢、林の中では横に出す我慢、ロングホールでツーオンを狙わない我慢、上りのパットは上りを少し残す我慢、パーディを取っても派手なガッツポーズをしない我慢。まだまだあります、ゴルフ前日にはボールを打たない、昼はアルコールを控える、マナーを守るのは当然で、ボールの処置も正確に行うなどなどこれらが全て出来たらもう少しハンディキャップも下がるのといつも考えています。我慢ばかりではストレスがたまるとは思われる方も多いと思いますが我慢がスコアアップにつながればゴルフは楽しくなりますし、ひいてはストレス解消になると信じています。

今後も教室の業績と同様に帖佐杯がいつまでも盛大に行われるよう願います。





新規開業にあたって

くろき整形外科

黒木 龍二

平成17年8月に宮崎市谷川（大淀中学校前）で無床診療所を開業させていただきました。医局在籍時は木村先生、田島先生、そして帖佐先生のお三方にご指導を賜り、またすばらしい同僚や後輩にも恵まれて、大変充実しておりました。

開業することは数年前まではまったく考えておりませんでした。ちょっとしたことがきっかけで、結局今のかたちに落ち着きました。開業を考え始めた頃、ある尊敬する先輩から「積極的開業」か「消極的開業」か、というニュアンスで聞かれたことがありました。そのときは余り意味がわかりませんでした。今振り返ってみると積極的開業の方だと思います。

開業を考えるきっかけ

3年くらい前に知り合いの金融機関の方がたまたま転勤の挨拶に訪れ、「近いうちにある医療施設が空きますが、どうですか？」と言われました。それまで開業はまったく考えておらず、もちろんその施設を本気で購入しようとは考えもしませんでした。それをきっかけに色々考えるようになり、また40歳を間近にひかえ将来のことを考え始めた時期だったことも重なって、開業も選択肢の一つに入ってきました。

現在の場所に決まった経緯

そのうち開業を本気で考えるようになり

ました。初めの頃は具体的な場所やプランは何もありませんでしたが、自分なりの絶対条件として、「同業の先輩方になるべく迷惑をかけない場所」ということだけは最初から心に決めておりました。そうは言いついてもあてがあるわけでもなく、しばらくは具体的な話がないまま過ぎていきましたが、そのような時また別な医療施設の購入話が入ってきました。前回の購入話とは違い、このときは非常に具体的で、頼んでもいないのにマーケティングだの経営予測だの訳のわからない数字を並べられました。少しだけ考えてみましたが、自分の知らないところで勝手に話が進められているような感じを受け、また何より先述の自分の絶対条件に合わなかったのできっぱりと断りました。それからは本気で場所を考えるようになり、不動産業者を回りいくつかの候補地の中で現在の場所の話が入ってきました。周辺に医療施設は多いのですがすべて内科系で、自分の中では第一印象から「ここしかない」と感じました。ただこれも順調に話が進んだわけではありません。金融機関というものは、自分たちが持ってきた話は良いように解釈し話を進めていきますが、こちらから話を持っていくと途端に厳しくなり、なかなかいい返事をもらえませんでした。紆余曲折はありましたが結果的に現在の場所に落ち着きました。

開業日までの道のり

このような話は広まるのも早く、様々なコンサルタント業者が声をかけてきました。しましこれまでの教訓からすべて自分でやろうと決めました。設計業者も途中で変更し、建築は入札で選択しました。幸いにも優秀な設計士と現場監督に恵まれ、細かいことまで厳しく管理していただいたので、建築は順調に進みました。また平行して医療器械、備品など、紙1枚まで自分で決めました。結構面倒くさいことも多く、途中で誰かにお願いしようかと考えたこともありました。自分で決めていけば何か不都合があっても自分の責任で納得するだろうと思ひ、続けました。しかしやはり初心者ですので抜けも多々有り、とくに各種の申請にはバタバタ追われました。そうして何とか開業の日に辿りつくことができました。

開業して10カ月

まだ10カ月の身でよし悪しもないのですが、自分の場合、開業して本当に良かったと感じております。医局在籍当時も好きな手の外科を担当させていただき充実していましたが、年々システムやマニュアルばかりが先行し患者さんとの距離が遠くなっていくような気がしておりました。診療所というところは患者さんとの距離がかなり近く、患者さんは何でも遠慮なく話してくれます。今思うと、大学病院を受診する患者さんとは結構距離があり、患者さんの側も言いたいことが十分に言えなかったような気がします。少なくとも自分には今の形態の方が合っており、そのことは開業した後に気がつきました。期待よりも不安の方が大きいスタートでしたが、そのことに気がついてからはかなり気分的に楽になりました。また駐車場があまり広くないため少々心配でしたが、開業してみると近くから散歩がてら歩いてくる人や運動のため自転車で来る人が結構多かったので大丈夫でした。ただ、雨の日は患者さんが少なくなります。

これから思うこと

世の中年々厳しくなり、医療界も悪いニュースばかりが目につきます。開業にあたって多くの先生のアドバイスをいただきましたが、やはりほとんどの先生が「厳しくなるよ」と口をそろえておられました。幸か不幸か、以前がどうだったかを知りませんので、今が厳しいのかどうか、正直わからないのが本音です。確かに今年も診療報酬の改訂があり近いうちに高齢者の負担も変わってきますので、これから厳しさを実感させられるとは思いますが、だからといって自分の力でどうにかなるものでもありません。スタートした以上途中で止まるわけにもいきませんので、自分のできる限界以上の無理はせず、背伸びをせず、好きな仕事を続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、田島先生、帖佐先生をはじめ、医局でお世話になった先生方、開業にあたり細かくアドバイスをいただきました諸先輩方、および現在何かと無理を言ってご迷惑をかけている社会保険病院の先生方に深くお礼申し上げます。





新規開業にあたって

野辺整形外科内科医院

野 辺 達 郎

平成5年に入局した野辺達郎です。平成17年7月より、父が昭和55年に開設した医院（佐土原）に勤務することとなりました。今日に至るまでご指導いただいた先生方には御礼申し上げます。新規開業というわけではありませんが、依頼により一言書かせていただくこととなりました。

開業医の長男に生まれ、いつかは開業するはずだと漠然と考えてました。今回開業の話もひょんな所から起こりました。旧医院の老朽化が進み、雨漏りが非常にひどくなり、外壁の破損の工事も必要になったのです。それから改築工事の話になり、私が帰ることになったのです。やはりこうなるのは運命だったのかなと感じます。

開業してみると、実家のそばに住むわけですから、親からの干渉は避けられません。何かと意見されます。また手術は小手術が主体

です。外来は毎日一日中となります。待ち時間についても大病院のようには待ってくれません。それ以外にも医療機器購入、勤務医時代にはあまり考えなかったスタッフの問題、収支について考えるようになり、医学とは関係ないことにもエネルギーを費やします。自分の力不足を日々感じております。

ご承知のように医療を取り巻く環境は厳しいものがあります。今後更なる診療報酬の引き下げも考えられ、医院の経営は厳しい時代です。整形外科についてもリハビリ日数の制限など不合理な問題が散見されます。しかしこれからは微力ながら、地道に地域医療に貢献していければと考えております。

これからも教室および同門の先生方には色々とお世話いただくことと思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。





新規開業にあたって

たにはた整形外科

谷 畠 満

①開業前の準備

平成17年11月1日に新富町で新規開業いたしました。

今回の開業に際して、帖佐教授をはじめ、前医局長の渡邊先生、現医局長の関本先生、また医局の先生方には多大な御配慮をいただきまして、大変感謝しております。

以前から開業についてぼんやりと考えていましたが、真剣に動き出したのは2年ぐらい前からでした。もちろん開業については何も知識が無かったので、総合メディカルという会社に開業のコンサルティングを依頼しました。詳細は控えますが、結果的には大満足しておりますし、現在も色々な事で相談させてもらっています。

また開業前の約1年間は獅子目整形外科病院で勤務させていただきましたが、開業医の大先輩である獅子目賢一郎先生には色々な知識（裏知識も!?)を教えていただき、本当にためになりました。診療の合間にも診療報酬点数表を見ながら、事務の女の子を捕まえて根掘り葉掘り聞いて勉強しました。この頃に開業医の大変さを実感いたしました。

さて、開業に際して非常に大事なポイントが、場所選びだと思います。僕が入局した当時から“開業するなら新富町がいいぞ”と先輩方から聞かされてましたので、最初から新富町内と決めてました。あとは地図を見ながら何度も自分の足で歩いて、現在の場所を選びました。

中学校、小学校、幼稚園に囲まれていて、非常に良い場所だったと思ってます。しかし、土地が3人の地主さんの土地に分かれていたので、交渉するのにかなり時間がかかりました。

②内覧会

開業日の2日前に、主に地域住民を対象に内覧会を行いました。前もって広告を作成し、新聞の折り込みチラシとして宣伝しました。結局1日で100人ぐらいの方が来院され、自由に見学されたり、診療器械の説明を受けて行ったり、病気の相談をされる方もいました。来院された方の多くが、その後患者さんとして受診していただき、内覧会をした効果があったと思っています。

③尿管結石になった

以前から時々血尿があり、レントゲンで右腎盂内に小さい結石があったのはわかっていたのですが、3月に始めての発作が出現しました。本当に転げまわる程の（実際は痛くて転げまわることなんて出来ませんが）痛みが襲ってきて、鎮痛剤を飲み点滴をしながら診療もこなして数日間耐えてきましたが、発作の間隔が短くなり、増強してきたため、ついに野崎東病院の泌尿器科でESWLを受けました。

これがまた痛い治療で、内臓をムチでたたかれるような衝撃を約40分間受けました。頑張った甲斐があり何とか石が半分に分けまし

て、数日後に割れた2つの石が同時に排出されました。あの時は感動しました。

以前に、藤元早鈴病院に勤務している時に肺炎（SARSの噂が流れましたが……）で入院した時にも思いましたが、“健康って大事だな〜”とつくづく実感しました。

これからは病気になって休みたくても、代わりに診療してくれる同僚もいないわけですから、かなり健康に気をつけたいと思っています。

④開業して半年がたって

5月で開業して半年がたちます。開業当初は1週間先のことも不安で予想がつかなかったのですが、本当にあっという間に月日が経過しました。それだけ充実しているという事だと思います。

何とか外来患者数も増えてきていますが、それだけ患者さんの待ち時間が増えるということで、いつも頭を悩ませております。対応策を色々考えて実行しているのですが、まだまだ解決には至らず、今後の大きな課題と思っています。

⑤電子カルテ、フィルムレスについて

当院の特色として、電子カルテと、CRの画像ファイリングシステムによるフィルムレスがあります。

開業前に諸先輩方の診療所を見学に行き、皆さんが口をそろえるように“レントゲンフィルムの保管する場所が足りなくて困っている！”と言われてました。大学での、数年前のフィルムを保管庫から取り出して、不必要なものをより分けて他の場所に持って行ったあの大変な作業を思い出しました。

それならばと、フィルムレスを選択しましたが、欠点といえば1度に何枚も並べて見ることが出来ないことぐらいで、大抵は画面上で2枚

ずつ見えます。高解像度のモニターを選べばよく見えますし、逆にモニターを患者さんの目の前に持ってきて説明できるので、患者さんにも好評です。

また電子カルテは、整形外科の診療所で電子カルテを導入しているところがまだ少なく不安もありましたが、厚労省が医療のIT化を推進しているのもありますし、それなら最初から電子カルテを導入した方がよいと思い、決断しました。

しかし、メーカーの担当者も言っていました、整形外科の電子カルテは非常に難しいので、まだ普及してないとのこと。理由は整形外科は①分野が広いこと②スケッチすることが多いこと③外来数が多いので、カルテに書き込む時間がとれないこと④“よだきんぼ”が多いこと？などが考えられます。

実際日々の診療に電子カルテを使っていますが、確かに時間が足りないので、レントゲン所見や、病名などは1日の診療が終了してから書き込んでいます。新患が多い時はこの作業に1時間以上かかることもあり、何とか改善しないといけないと思っています。しかし、紙カルテに比べて診療から会計までの時間が断然に早いので、患者さんにはメリットが多いようです。

⑥今後の展望

新富町は高齢者の骨粗鬆症に対する認知度が低く、また治療を継続できている人が少ないと思います。健康寿命を延ばすというこれからの予防医療のためには、骨粗鬆症の治療が不可欠と思われるので、地域住民への啓蒙活動も出来れば良いなと思っています。あとは、健康を維持してストレスをためずに診療して、早く借金を返したいです。まとまりのない文章が長々と続きまして、申し訳ありませんでした。

新入会員紹介(賛助会員)



整形外科押川病院 押川達巳

野尻町で内科、整形外科押川病院を開業しております押川達巳です。

昨年末に、宮崎大学医学部整形外科教室の賛助会員として、皆様の仲間としてご承認を頂きました。帖佐教授及び教室の先生方や同門会の皆様に心から感謝申し上げます。

私は、昭和54年に福岡大学医学部を卒業、田仲謙次郎教授の宮崎医科大学第1内科学教室に入局し消化器学を学びました。昭和61年に義弟と共に内科、整形外科押川病院を開設いたしました。平成元年に義弟が大阪で開業する事となり、整形の一部の患者様は小林市まで紹介致しましたが、どうしても野尻町で治療を希望される、患者様の治療の継続に苦慮し、当時、田島教授にお願いに参りました処、わざわざ野尻町までお越し頂き、実情をご視察になり、医局の先生方を派遣して頂く事になりました。以来、現在に至っております。

私は平成9年に福岡大学医学部で学位を取得しました。

趣味は美術刀剣の鑑定を少し学びまして、美術館や博物館で刀剣の鉄や刃文の美しさを鑑て楽しんでます。

今後とも末長く宜しくお願い申し上げます。





よろしくお願ひ致します

池之上整形外科 池之上 貴

昨年9月より都城市にて父（池之上邦彦）の後を継ぎ、新たに池之上整形外科として開業致しました。以前より田島前教授はじめ、宮崎大学整形外科の先生方には大変お世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げます。

昨今の医療行政が非常に厳しい状況において、開業すべきか否か非常に考えるところではありましたが、これまでの経験をいかすべく確固たる信念を持って、積極的な医療を提供していく所存であります。よろしくお願ひ申し上げます。





入会のご挨拶

社団法人 八日会
理事長 藤元 登四郎

日頃より、宮崎大学医学部整形外科学教室には、大変お世話様になりまして、心より感謝いたしております。また、賛助会員として同門会に入会させていただきまして有難うございました。振り返りますと、すでに、初代の木村教授や田島教授の時代からご指導を賜っております。その当時より、整形外科学教室の高度な学問的レベルや非常にまじめな教室のカラーに対しまして、心より敬意を抱いてまいりました。そして、早いもので、三代目の帖佐悦男教授がご就任され、ますます発展しておりますが、私たちも引き続き格別のご配慮を賜りまして感謝いたしております。

現在、当病院には、ご教室より、園田典生先生と公文崇詞先生にご出張をいただいております。大学のバックアップのおかげ様で、お二人の先生は、患者様の評判もよく、押すな押すなの盛況であります。都城はもちろん、鹿児島県の曾於市などからも大勢の患者様が見えまして、地域医療の中核となっております。

特に園田先生のスポーツ整形医学は、この地域のスポーツをする人々にとって、子供から大人まで大きな救いとなっております。両先生には心より御礼申し上げます。

ところで、八日会の前身であります藤元医院は、結核を専門とする放射線科医であった私の父親が、昭和17年に、都城市の上町にオープンしました。創設以来、地域の人々に信頼していただく医療をモットーにして、発展してまいりました。当時は、結核の患者様が多く、地域の結核医療の中核的役割を果たし、ご支援を受けました。私は、子供の頃から懸命に働く父親の姿を見て育ちました。父親は、私が朝起きたときには仕事に出て、夜も寝てから帰ってくるという生活でした。日曜も祭日もなく、一緒に食事をした記憶はまったくありません。当時の日本は、病院ばかりではなく、すべての仕事がそうでした。これが現在の日本の社会を支えているのだと思います。

現在の藤元早鈴病院は、その結核病棟のあとに建っています。その後、精神科が併設されましたが、現在でも、宮崎県唯一の精神結核病棟があるのは、その名残です。私は、父親の後を継いで、二代目の理事長です。精神医学が専門で、精神障害の皆様方を解放することを目標にしております。

幸いにも、精神病棟に隣接して、整形外科を含む総合病院がありますので、精神科の患者様の内科外科疾患には、最高の医療を行うことができます。非力な私にとりまして、それが最大の喜びです。これも、整形外科学教室の皆様方のおかげ様でございます。

医療をめぐる経済的環境はますます厳しくなっております。社会は本物を求めているのです。私もこの厳しさを何とか乗り切りたいと思います。すなわち、ベストの医療を提供することが、危機を切り抜ける最高の手段であると信じております。

それでは、整形外科学教室の皆様方に、重ねて御礼申し上げますとともに、今後ともよろしくご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新入会員自己紹介(正会員)



氏名 菅田 耕
生年月日 昭和 53 年 12 月 24 日
出身高校 鹿屋高校
出身大学 川崎医科大学
血液型 O 型

本年度より宮崎大学医学部整形外科に入局させていただいた菅田耕です。大学時代は、サーフィン、スノーボード部でした。医者となり3年目となりますが、特に整形外科に関しては右も左もわからない状態です。これから皆様にもご迷惑をおかけすることがあると思いますが、がんばっていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。



氏名 比嘉 聖
生年月日 昭和 53 年 6 月 9 日
出身高校 久留米大学附設高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 A 型

はじめまして、平成 18 年入局の比嘉と申します。出身は沖縄ですが、中学校より福岡にでて、大学は宮崎医科大学にお世話になりました。大学時代は、ラグビー部に所属し、毎日スクラムを組んでいました。卒業後、研修医の2年がようやく終わり、整形外科に入局し、毎日充実した毎日を過ごしています。まだまだ分からないことが多く、勉強することばかりです。これからも先輩方にいろいろ御迷惑をおかけしますが、どうぞ宜しくお願いします。



氏 名 福 田 一
生年月日 昭和 54 年 6 月 9 日
出身高校 日向高校
出身大学 長崎大学
血液型 B 型

〈profil〉 26 才、男性

〈既往歴〉 20 才、右中指 mallet finger

21 才、右肩関節脱臼

23 才、右環指中手骨骨折

23 才、左小趾中足骨骨折

〈現病歴〉 H 10、長崎大学医学部入学、ラグビー部入部する。

H 16、同大学卒業、宮崎大学医学部附属病院にて卒後臨床研修を開始。

H 17、11 月 ローテートで整形外科を回り、執拗な勧誘をうけ

H 18、4 月 整形外科入局となった。



氏 名 樋 口 誠 二
生年月日 昭和 43 年 7 月 11 日
出身高校 日向学院
出身大学 藤田保健衛生大学
血液型 A 型

平成 15 年度藤田保健衛生大学卒業し、宮崎大学で卒後臨床研修を行い、今年度、整形外科に入局した樋口誠二と申します。

これから、帖佐教授のもと、いろいろ勉強させていただき、宮崎の地域に貢献していきたいと考えております。今後、同門会の諸先輩方と御仕事させていただく機会があると思いますが、その際ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



氏名 近藤 梨紗
生年月日 昭和 54 年 12 月 9 日
出身高校 宮崎県立宮崎大宮高等学校
出身大学 東京女子医科大学
血液型 A 型

2 年前より始まった卒後臨床研修制度の第 1 期生です。研修医時代には、宮崎大学医学部附属病院、宮崎市郡医師会病院、善仁会病院にて貴重な研修をさせていただき、大変お世話になりました。

最終的に、当医局に入局させていただくこととなりました。帖佐先生をはじめ、諸先輩方の親切で丁寧なご指導で、整形外科の入口に立つことができたと感謝しております。今後は、諸先輩方のお力添えを得まして少しでも一人前の整形外科医となるべく、精進いたしますので、何卒御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。



氏名 河野 勇泰喜
生年月日 昭和 53 年 7 月 10 日
出身高校 宮崎南高校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 B 型

地元宮崎田野町出身です。高校までは柔道、大学からはラグビーをしておりました。元々スポーツをしており、整形外科に興味はありました。ラグビーの顧問をしていただいている帖佐先生と関本先生の熱い勧誘を受けて入局を決めました。諸先輩方に負けないように頑張りますので、どうか御指導よろしく申し上げます。



氏名 小牧 ゆか
生年月日 昭和 54 年 3 月 22 日
出身高校 都城泉ヶ丘高等学校
出身大学 金沢医科大学
血液型 O 型

寒さに耐えられず、大学卒業後は、九州へ帰って2年間、麻酔科にいましたが、毎日術野側にいる先生方がうらやましく思い、思いきって宮崎へ帰り、この整形外科学教室へ飛び込んでしまいました。好奇心旺盛で飽きっぽいところもありますが、どうかよろしくお願い致します。



氏名 花堂 祥治
生年月日 昭和 37 年 9 月 26 日
出身高校 宮崎西高
出身大学 産業医科大 S63 卒
血液型 AB 型

平成 18 年 5 月より入局しました花堂祥治と申します。研修医の頃からずっと脊椎外科を中心に診療して参りましたので関節外科の知識はやや劣ると思います。

産業医大卒業以来、九州地区で勤務したのは2年間のみで、あとは関東地区におりましたので、地元出身にもかかわらず右も左もわからないような状態です。同門の皆様に色々と御指導いただきたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 木屋博昭
生年月日 昭和22年7月22日
出身高校 武雄高校(佐賀県立)
出身大学 熊本大学
血液型 B型

S 48年熊大卒業、

S 52年より宮崎県立延岡病院勤務

H 18年4月よりあたご整形外科勤務

2000例以上の人工関節置換術を施行した経験をもとに、今後若い先生の人工関節に対する知識・技術獲得の場として貢献していきたいと思ひます。



氏名 弓削七重
生年月日 昭和47年2月12日
出身高校 宮崎県立宮崎西高校
出身大学 長崎大学
血液型 B型

今年度で、卒後11年目になります。しかし、がむしゃらに働くことができたのは6年半の間。出産のため一時休業し、産まれて間もない長男を抱いて東京へ行き、なんとか専門医試験はクリアしましたが、その後は非常勤やベッドフリーという形でしか働いていないので整形外科医としてはまだまだ未熟者です。

二人目の出産を契機に、高校までを過ごした懐かしい宮崎に帰ってきて、実家(弓削整形外科)の手伝いをしていましたが、昨年、帖佐教授のご厚意で入局させていただきました。昨年9月から社会保険病院に非常勤勤務し、本部先生のもとで勉強させていただいています。

しかしながら現在、三人目を妊娠し、また今秋から出産のため一時休業…の予定です。入局させていただいたものの、なかなか医局のお役に立てず心苦しいですが、また早くに復帰して頑張りたいと思ひています。

皆様、これからもご指導よろしくお願ひいたします。

平成 18 年度 宮崎大学医学部整形外科学教室 同門会総会 議事報告

総会：H 17/12/ 3、ホテル神田橋

1. 平成 17 年度 (H 16/10/ 1～H 17/ 9/30) 報告

(1) 会員状況 (平成 17 年 9 月 30 日現在)

正会員：139 名、賛助会員：38 名

(2) 会員動向

正会員入会：弓削 孝雄 先生 (平成 17 年 1 月 1 日付)

弓削 七重 先生 (平成 17 年 4 月 17 日付)

賛助会員入会：高見 博昭 先生 (平成 16 年 11 月 20 日付)

大崎 泰 先生 (平成 16 年 11 月 20 日付)

河合 淳 先生 (平成 16 年 11 月 20 日付)

小櫻 博幸 先生 (平成 16 年 11 月 20 日付)

名誉会員退会：玉井 達二 先生 (平成 17 年 6 月 24 日ご逝去)

教室 人事：ホームページ掲載

結 婚：後藤 英一 先生 (平成 17 年 3 月 13 日)

桐谷 力 先生 (平成 17 年 5 月 7 日)

田島 卓也 先生 (平成 17 年 9 月 23 日)

開 業：黒木 龍二 先生 (平成 17 年 7 月 1 日)

(3) 事業報告

平成 16 年 11 月 20 日 (土)：第 1 回役員会、平成 17 年度総会、講演会、忘年懇親会

11 月 21 日 (日)：第 13 回同門会ゴルフ大会

11 月 23 日 (火)：第 7 回同門会テニス大会

12 月 ；同門会会則名簿発行

平成 17 年 5 月 21 日 (土)：第 2 回役員会、新入教室員歓迎会

7 月 26 日 (火)：同門会誌 (第 16 号) 発行

8 月 17 日 (水)：第 3 回役員会

(4) 会計報告

平成 17 年度決算は監査報告があり承認された。

2. 平成 18 年度 (H 17/10/ 1～H 18/ 9/30) 事業計画・予算

(1) 総 会：H 17/12/ 3 ホテル神田橋

(2) 親睦行事：H 17/11/23 第 8 回テニス大会

H 17/12/ 3 第 1 回麻雀大会

H 17/12/ 4 第 14 回ゴルフ大会

(3) 平成 19 年度総会開催期日：今後役員会にて検討

(4) 同門会便り：ホームページ掲載の方向で検討

- (5) 同門会誌（第 17 号）発行予定：平成 18 年 6 月頃
- (6) 同門会奨励賞（新設）：
若手を中心とした臨床医・研究者を対象として自薦他薦を問わず優秀な研究・臨床活動を行った会員に奨励賞が送られる。申請は 9 月末、役員会で最終的に選考し、総会にて公表し表彰する。
- (7) 教室支援：第 31 回九州リウマチ学会（宮崎）
- (8) 平成 18 年度予算案承認：
前年度にはない奨励賞を含む学術活動支援費および事務人件費に関する予算案（2,300,000 円）が承認された。
- (9) 賛助会員入会承認：押川 達巳 先生 医療法人 興生会 押川病院
藤元登四郎 先生 医療法人 八日会 藤元病院
池之上 貴 先生 池之上整形外科
- (10) 役員改選
平成 18・19 年度（H 17/10/ 1～H 19/ 9/30）の役員選出が選挙管理委員の立ち会いのもと、会則 6 条に則り行われ承認された。選出役員は以下のとおり。

会 長	河 野 雅 行		
幹 事	岡 田 光 二	渡 辺 信 二	
会 計	川 越 正 一	山 本 惠 太 郎	
監 査	税 所 幸 一 郎	戸 田 勝	
世 話 人	伊 勢 紘 平	押 川 紘 一 郎	
	長 鶴 義 隆	平 川 俊 一	
	川 野 啓 一 郎	松 本 宏 一	
	帖 佐 悦 男	柏 木 輝 行	
	黒 木 龍 二	園 田 典 生	
	関 本 朝 久	川 野 彰 裕	
	石 田 康 行		

教室同門の研究業績

(2004. 1月～12月)

◆原 著

- 1) A biomechanical study of lumbar spondylolysis based on a three-dimensional finite element method

Chosa E, Totoribe K, Tajima N
Orthopaedic research, 22(1): 158-163, 2004

- 2) Analysis of the effect of lumbar spine fusion on the superior adjacent intervertebral disk in the presence of disk degeneration, using the three-dimensional finite element method

Chosa E, Goto K, Totoribe K, Tajima N
Spinal Disorders & Techniques, 17(2) : 134-139, 2004

- 3) A biomechanical study of lumbar fusion based on a three-dimensional nonlinear finite element method

Totoribe K, Chosa E, Tajima N
Spinal Disorders & Techniques, 17(2) : 147-153, 2004

- 4) Posterolateral lumbar fusion

Tajima N, Chosa E, Watanabe S
Orthopaedic Science, 9(3) : 327-333, 2004

- 5) Contributions of Flexion-Extension Cyclic to the Lumbar Spinal Segment Stability Following Different Discectomy Procedures

Hiroshi kuroki, Vijay K.Goel, Scott A Holekamp,
Nabil A.Ebraheim, Shinichiro Kubo, Naoya Tajima
Spine, 29(3) : E39-E46, 2004

- 6) 四肢に多発した Schwannomatosis の症例報告

黒木修司, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 内田秀穂,
前田和徳, 桐谷 力, 田島直也
整形外科と災害外科, 53 (1) : 71-74, 2004

- 7) RA の臼底突出に対する Acetabular reinforcement ring with hook 使用例の成績

桐谷 力, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 内田秀穂,
前田和徳, 黒木修司, 田島直也
整形外科と災害外科, 53 (1) : 111-115, 2004

- 8) 整形外科における Acutrak screw の使用経験 成績不良例の検討
山本恵太郎, 帖佐悦男, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明, 田島直也
整形外科と災害外科, 53 (1) : 199-202, 2004
- 9) 膝蓋腱断裂に人工靭帯を使用した治療経験
小園敬洋, 松元征徳, 森 治樹, 田邊龍樹, 田爪陽一朗, 増田 寛
整形外科と災害外科, 53 (2) : 246-249, 2004
- 10) アキレス腱断裂に対する経皮的縫合術の MRI による経過及び治療成績
川添浩史, 長鶴義隆, 松岡知己, 村上 弘
整形外科と災害外科, 53 (2) : 250-254, 2004
- 11) スポーツ医学と腰椎に関する論文集—田島直也と共同研究者による—
田島直也, 2004.
- 12) Spinal Instrumentation 可動性を有する instruments をめざして
田島直也
臨床整形外科, 39 (4) : 405-411, 2004
- 13) 腰椎すべり症に対する腰椎後側方固定術の長期遠隔成績— Pedicle screw system の有用性
について—
黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 吉田尚紀, 後藤英一, 増田 寛,
後藤啓輔, 田島直也
西日本脊椎研究会誌, 30 (2) : 128-134, 2004
- 14) 脊髄損傷患者に対するアンケート調査による社会的不利の検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 久保紳一郎, 黒木浩史,
渡部正一, 田島直也
宮崎県医師会医学会誌, 28 (1) : 37-40, 2004
- 15) 深屈曲・正座を目標とした人工膝関節置換術
中村嘉宏, 柏木輝行, 田島卓也, 矢野良英
宮崎県医師会医学会誌, 28 (1) : 41-47, 2004
- 16) 当科における過去5年間の側弯症診療状況とその問題点
黒木浩史, 後藤英一, 栗原典近, 田島直也
宮崎県医師会医学会誌, 28 (1) : 48-53, 2004

- 17) 頰椎椎弓根スクリー法の安全性・有用性について
吉田尚紀, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 後藤英一, 増田 寛,
帖佐悦男
宮崎県医師会医学会誌, 28 (2) : 138-141, 2004
- 18) 本スパイクセメントレス人工股関節(JOHP)の経験
甲斐糸乃, 帖佐悦男, 渡辺信二, 坂本武郎, 福元洋一, 濱田浩朗,
黒沢 治, 前田和徳
整形外科と災害外科, 53 (3) : 546-549, 2004
- 19) 胸腰椎破裂骨折に対する当科における治療経験 手術療法を中心として
桐谷 力, 藤本 徹, 弓削孝雄, 西里徳重, 大宮浩史, 山田正寿,
木屋博昭
整形外科と災害外科, 53 (4) : 735-739, 2004
- 20) 当科におけるWatson法の短期成績
吉川教恵, 帖佐悦男, 黒木龍二, 矢野浩明, 河野 立, 谷島 満
整形外科と災害外科, 53 (4) : 806-809, 2004
- 21) 圧潰を生じた大腿骨頭壊死に対する新しい骨頭温存手術?セメント充填補強術
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 前田和徳, 濱田浩朗
Hip Joint, 30 : 48-51, 2004
- 22) 年長児バルテス病に対する大腿骨骨切り術とSalter骨盤骨切り術併用の検討
黒沢 治, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 前田和徳
Hip Joint, 30 : 230-233, 2004
- 23) Hip-spine syndrome X-P像の撮影時の肢位・股関節症の状態による変化
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 濱田浩朗, 黒沢 治, 前田和徳
Hip Joint, 30 : 305-307, 2004
- 24) 急速破壊型股関節症の病因検討
前田和徳, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 黒沢 治
Hip Joint, 30 : 374-377, 2004
- 25) 側彎症学校検診におけるモアレ判定法の実際
黒木浩史, 久保紳一郎, 吉田尚紀, 後藤英一, 後藤啓輔, 田島直也
脊柱変形, 19 (1) : 117-122, 2004

26) 関節リウマチにおける内科的治癒の検証に関する研究

當間重人, 衛藤義人, 安田正之, 千葉実行, 松井利浩, 税所幸一郎
平成15年度厚生労働科学研究費補助金—免疫アレルギー疾患予防・
治療研究事業研究報告会抄録集, 263-265, 2004

◆症例報告

1) 稀な環指ロッキングの1例

小牧 亘, 佐藤隆三, 小牧一磨, 濱田浩朗
整形外科と災害外科, 53 (1) : 170-174, 2004

2) 脊椎手術後に発症した冠動脈狭窄の2例

後藤英一, 田島直也, 久保紳一郎, 黒木浩史, 後藤啓輔
整形外科と災害外科, 53 (2) : 274-280, 2004

◆その他

1) [リハBASIC, 骨・関節X線像のみかた] 膝関節(1)

鳥取部光司, 帖佐悦男
Clinical Rehabilitation, 13 (3) : 268-272, 2004

2) [リハBASIC, 骨・関節X線像のみかた] 膝関節

鳥取部光司, 帖佐悦男
Clinical Rehabilitation, 13 (4) : 358-361, 2004

3) [質疑応答] 関節屈曲音の発生機序と痛みとの関係

帖佐悦男
日本醫事新報, No.4184 : 111, 2004

4) [Hip-spine syndromeの現況] Hip-spine syndrの分類における症状とX線学的特徴

帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 関本朝久, 前田和徳
関節外科, 23 (4) : 476-483, 2004

5) [小外科・外来処置マニュアル, 四肢・皮膚] アキレス腱損傷

帖佐悦男
臨床外科, 59 (11) : 274-275, 2004

6) 新たな医師臨床研修制度についてー臨床研修の基本理念ー

帖佐悦男

整形外科, 55 (12) : 1530, 2004

7) 中高年の方々のための健康体操ー腰痛, ひざ痛の予防を中心にー

田島直也 (監修)

Video企画 エーザイ株式会社, 製作 ライフムービー株式会社,
2004

8) 関節リウマチの整形外科的治療について

税所幸一郎

はまゆう, 23, 2004

◆学会報告

1) 前十字靭帯再建術後の筋力評価

船元太郎, 帖佐悦男, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎,
河野 立, 吉川大輔

第30回宮崎県スポーツ医学研究会, 2004, 2, 宮崎

2) 宮崎県高校野球選手に対する傷害調査

吉川大輔, 帖佐悦男, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎,
河野 立, 船元太郎

第30回宮崎県スポーツ医学研究会, 2004, 2, 宮崎

3) SLAP lesion(Type 2)に対する鏡視下修復術の治療経験

井上 篤, 田島直也, 樋口潤一, 後藤啓輔, 小藺敬洋

第30回宮崎県スポーツ医学研究会, 2004, 2, 宮崎

4) U-15宮崎県サッカー選抜ドイツ遠征に帯同して

樋口潤一

第30回宮崎県スポーツ医学研究会, 2004, 2, 宮崎

5) CHART日本語版による当院脊髄損傷患者の検討

崎濱智美, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 濱田浩朗, 久保紳一郎,
黒木浩史, 田島直也

第26回宮崎リハビリテーション研究会, 2004, 2, 宮崎

- 6) 呼吸・嚥下に障害を持つ子ども達の座位姿勢の検討ーRider Chairの紹介ー
河野智行, 横山浩一郎, 澤田一美, 山口和正
第26回宮崎リハビリテーション研究会, 2004, 2, 宮崎
- 7) 大腿骨頸部骨折患者に対する栄養管理を試みて
豊永恵子, 淵田ルミ, 宝生博美, 浪平辰州, 猪俣尚規, 勝寫葉子
第26回宮崎リハビリテーション研究会, 2004, 2, 宮崎
- 8) 偽膜性腸炎患者に対するGFO療法の有効性について
谷口江美, 安原一恵, 浪平辰州, 猪俣尚規, 勝寫葉子
第26回宮崎リハビリテーション研究会, 2004, 2, 宮崎
- 9) RA外来患者のRAに対する認識についてー外来アンケートによる検討ー
加藤好子, 西畑里美, 戸高裕子, 堀田伊津美, 税所幸一郎
第19回宮崎県リウマチ研究会/第12回宮崎リウマチのケア研究会,
2004, 2, 宮崎
- 10) 関節リウマチにおける内科的治療の検証に関する研究
當間重人, 衛藤義人, 安田正之, 千葉実行, 松井利浩, 税所幸一郎
平成15年度厚生労働科学研究費補助金ー免疫アレルギー疾患予防・
治療研究事業研究報告会一, 2004, 2, 東京
- 11) 早期関節リウマチ症状を呈する血中アドレノメデュリン
濱田浩朗, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 前田和徳
第48回日本リウマチ学会総会・学術総会, 2004, 4, 岡山
- 12) 母指CM関節症に対するtension-band-wiringによる関節固定術の治療成績
原田香苗, 中島英親, 寺本憲市郎, 長井卓志, 星野秀士
第47回日本手の外科学会学術集会, 2004, 4, 大阪
- 13) 再接着が不可能であった母指切断に対する治療成績
寺本憲市郎, 中島英親, 原田香苗, 長井卓志, 田口 学
第47回日本手の外科学会学術集会, 2004, 4, 大阪
- 14) Idiopathic Ossification of Acetabular Labrum in Japan
Etsuo Chosa, Takero Sakamoto, Shinji Watanabe,
Osamu Kurosawa, Kazunori Maeda, Hiroaki Hamada,
Tomohisa Sekimoto
第77回日本整形外科学会学術集会, 2004, 5, 神戸

- 15) 年長児バルテス病に対する大腿骨骨切り術とSalter骨盤骨切り術併用の検討
黒沢 治, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 前田和徳
第77回日本整形外科学会学術集会, 2004, 5, 神戸
- 16) 急速破壊型股関節症の病因検討
前田和徳, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 黒沢 治
第77回日本整形外科学会学術集会, 2004, 5, 神戸
- 17) マラソン競技による筋損傷に対する血清マーカーとしての β -enolaseの評価
帖佐悦男, 園田典生, 山本恵太郎, 田島直也
第77回日本整形外科学会学術集会, 2004, 5, 神戸
- 18) 脊髄損傷患者のアンケート調査による社会的不利と問題点の検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 黒木浩史, 渡部正一
第41回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2004, 6, 東京
- 19) 脊髄損傷患者に対するCHART式評価法による介護との関連の検討
濱田浩朗, 鳥取部光司, 帖佐悦男, 黒木浩史
第41回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2004, 6, 東京
- 20) 老人保健施設入所者におけるTUGテストを用いた転倒危険性の予測の検討
濱田浩朗, 鳥取部光司, 帖佐悦男
第41回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2004, 6, 東京
- 21) 横止め式再置換用ステムの短期成績
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳
第13回MX人工関節研究会, 2004, 6, 那覇
- 22) 胸椎硬膜外血管腫の2例
後藤英一, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 増田 寛, 吉川教恵,
帖佐悦男, 後藤啓輔
第107回西日本整形・災害外科学会, 2004, 6, 北九州
- 23) L5/S1椎間レベルに椎間板嚢腫を認めた一例
増田 寛, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 後藤英一, 小島岳史,
帖佐悦男
第107回西日本整形・災害外科学会, 2004, 6, 北九州

- 24) 下肢骨折に対する最小侵襲プレート固定術(Minimally Invasive Plate Osteosynthesis)の経験
小松奈美, 田邊龍樹, 黒沢 治, 栗原典近
第107回西日本整形・災害外科学会, 2004, 6, 北九州
- 25) ペルテス病にて手術を施行した症例の術前MRIの検討
吉川大輔, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,
前田和徳
第107回西日本整形・災害外科学会, 2004, 6, 北九州
- 26) アンケート調査による脊髄損傷患者の福祉機器の検討
崎濱智美, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 濱田浩朗, 久保紳一郎,
黒木浩史
第107回西日本整形・災害外科学会, 2004, 6, 北九州
- 27) 女性の膝前十字靭帯再建術施行例における術後筋力評価－再建材料による比較－
船元太郎, 帖佐悦男, 園田典生, 山本恵太郎
第107回西日本整形・災害外科学会, 2004, 6, 北九州
- 28) 当院での大腿骨刺激骨折に対する術中透視時間の検討
大倉俊之, 塩月康弘, 塩田勝美
第107回西日本整形・災害外科学会, 2004, 6, 北九州
- 29) MIS(Minimally Invasine Surgery)による人工膝関節置換術－Quad Spring TKA－
柏木輝行, 田島卓也, 矢野良英
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 30) THA術後の反復性脱臼症例に対する手術的治療経験 (拘束型人工股関節置換術の治療経験)
西里徳重, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 大宮博史, 山田正寿,
桐谷 力
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 31) ガンマネイル手技における術中透視法について－被曝削減のために－
塩月康弘, 大倉俊之, 坂田勝美
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 32) Pilon骨折の治療
益山松三, 神菌 豊, 野崎正太郎, 池尻洋史
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎

- 33) 著明な硬膜外異所性石灰沈着をきたした長期透析患者の1例
三橋龍馬, 公文崇詞, 後藤英一, 黒木浩史, 久保紳一郎, 帖佐悦男,
小牧 亘, 木屋博昭, 藤本 徹, 桐谷 力
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 34) 大腿に及ぶ腸腰筋腫瘍を形成した糖尿病の1例
猪俣尚規, 浪平辰州, 勝瀨葉子
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 35) 急性特発性脊髄硬膜外血腫の4例
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 増田 寛, 後藤英一, 公文崇詞,
船元太郎, 三橋龍馬
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 36) 腱板広範囲断裂に対する鏡視下腱板修復術の経験
石田康行, 酒井 健, 江夏 剛
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 37) 両側変形性肩関節症にて、一側に肩関節全置換術を、他側に肩関節片置換術をおこなった1例
田辺龍樹, 黒沢 治, 栗原典近, 小松奈美
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 38) 上腕骨骨幹部骨折に横止め式髓内釘を行い偽関節を来した2症例
桐谷 力, 西里徳重, 弓削孝雄, 藤本 徹, 大宮博史, 山田正寿,
木屋博昭
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 39) 小児上腕骨顆上骨折の治療経験
勝瀨葉子, 浪平辰州, 猪俣尚規
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 40) 上腕骨近位端骨折の保存的治療成績
松岡知己, 長鶴義隆, 川野彰裕, 中村嘉宏
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎
- 41) 鳥口突起骨折に対し保存的加療を行った症例
黒木修司, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 河野 立,
帖佐悦男
第48回宮崎整形外科懇話会, 2004, 6, 宮崎

- 42) 円板状半月術後の関節症性変化
山本恵太郎, 帖佐悦男, 園田典生
第30回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2004, 6, 宮崎
- 43) スポーツ選手に対する足底板の効果—足関節内側捻挫の症例を通して—
尾崎勝博, 小田 節, 田島直也, 横山茂樹
第16回日本理学診療医学会, 2004, 7, 東京
- 44) アルブミン分子上におけるサイトII結合阻害薬ナブメトン (レリフェン) の基礎的検討と脂肪酸の影響
徳永 仁, 高村徳人, 帖佐悦男, 奥村 学, 藤田健一, 山崎啓之,
横田 崇, 緒方賢次, 日高宗明, 黒木教彰, 甲斐晃弘, 千代反田晋,
川井恵一, 有森和彦
第12回クリニカルファーマシーシンポジウム・医療薬学フォーラム,
2004, 7, 札幌
- 45) 薬物血清蛋白質結合変化を敏速に予測するための薬学的分布診断法 (動態学的血管内聴診器) と病態時の診断事例
高村徳人, 帖佐悦男, 徳永 仁, 藤田健一, 奥村 学, 山崎啓之,
緒方賢次, 日高宗明, 黒木教彰, 甲斐晃弘, 千代反田晋, 本屋敏郎,
平井正己, 松岡俊和, 川井恵一, 有森和彦
第12回クリニカルファーマシーシンポジウム・医療薬学フォーラム,
2004, 7, 札幌
- 46) Etiology of rapidly destructive coxarthrosis
Chosa E
New concepts in surgery of the hip—First international
symposium, 2004, 8, Berne
- 47) Interactions of 6-methoxy-2-naphtyl acid (6MNA) with human serum proteins
Jin Tokunaga, Norito Takamura, Etsuo Chosa, Toshiro Motoya,
Ken-ichi Fujita, Manabu Okumura, Keishi Yamasaki,
Kenji Ogata, Muneaki Hidaka, Hirofumi Kodama, Noriaki Kuriki,
Hiromitsu Kai, Susumu Chiyotanda, Keiichi Kawai,
Kazuhiko Arimori Possibility of site II binding inhibitor in
clinical, 第64回FIP, 2004, 9, ニューオーリンズ

- 48) A diagnostic method of pharmaceutical distribution for predicting a change of drug protein binding
Norito Takamura, Etsuo Chosa, Jin Tokunaga, Toshiro Motoya, Ken-ichi Fujita, Manabu Okumura, Keishi Yamasaki, Kenji Ogata, Muneaki Hidaka, Hirofumi Kodama, Noriaki Kuroki, Hiromitsu Kai, Susumu Chiyotanda, Keiichi Kawai, Kazuhiko Arimori
第64回FIP, 2004, 9, ニューオーリンズ
- 49) 白蓋形成不全（亜脱臼性股関節症）に対する寛骨臼補正手術の適応限界－進行期以降、骨嚢胞（1.5cm以上）症例－
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 前田和徳, 濱田浩朗, 関本朝久
第31回日本股関節学会学術集会, 2004, 10, 長崎
- 50) 股関節のMR arthrographyの特徴
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳
第31回日本股関節学会学術集会, 2004, 10, 長崎
- 51) ペルテス病に対して手術を施行した症例の術前MRI所見
関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 前田和徳, 岡田麻里, 吉川大輔, 甲斐糸乃
第31回日本股関節学会学術集会, 2004, 10, 長崎
- 52) 急速破壊型股関節症の病理組織学的評価
前田和徳, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗
第31回日本股関節学会学術集会, 2004, 10, 長崎
- 53) Hip-spine syndrome –Secondary hip-spine syndromeにおける骨盤・脊椎アライメント－
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 前田和徳, 濱田浩朗, 関本朝久
第31回日本股関節学会学術集会, 2004, 10, 長崎
- 54) 股関節X線撮影時の肢位と撮影法による変化
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳
第31回日本股関節学会学術集会, 2004, 10, 長崎
- 55) 人工股関節再置換術におけるCANNULOK Revision Hip Systemの短期成績
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳
第31回日本股関節学会学術集会, 2004, 10, 長崎

- 56) 宮崎シーガイアトライアスロン大会2004におけるアンケート調査
河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎
第15回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2004, 10, 大阪
- 57) 市民マラソン選手における筋組織特異抗原 β -enolaseの検討—第2報—
山本恵太郎, 帖佐悦男, 河原勝博
第15回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2004, 10, 大阪
- 58) アルブミン分子上におけるサイトII結合阻害薬ナブメトン (レリフェン) と脂肪酸の変化を利用した投与法に関する基礎的検討
徳永 仁, 高村徳人, 帖佐悦男, 藤田健一, 奥村 学, 山崎啓之,
横田 崇, 緒方賢次, 日高宗明, 黒木教彰, 甲斐晃弘, 千代反田晋,
中村禎志, 川井恵一, 有森和彦
第14回日本医療薬学会年会, 2004, 10, 幕張
- 59) 薬物血清蛋白結合変化を敏速に予測するための薬学的分布診断法 (動態学的血管内聴診法) の基礎的原理と病態時の診断事例
高村徳人, 帖佐悦男, 徳永 仁, 藤田健一, 奥村 学, 山崎啓之,
緒方賢次, 日高宗明, 黒木教彰, 甲斐晃弘, 千代反田晋, 本屋敏郎,
平井正己, 松岡俊和, 川井恵一, 有森和彦
第14回日本医療薬学会年会, 2004, 10, 幕張
- 60) 考案したヒッププロテクター (第2報)
平部久彬, 田中隆信
第6回日本骨粗鬆症学会, 2004, 11, さいたま
- 61) 特発性側弯症に対する装具療法の成績—大阪医大式装具 (OMC brace) を用いて—
黒木浩史, 公文崇詞, 後藤英一, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也
第38回日本側弯症学会, 2004, 11, 静岡
- 62) 有限要素法による大腿骨ステムの固定性の力学的検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 本部貢司, 渡邊信二
第31回日本臨床バイオメカニクス学会, 2004, 11, 福岡
- 63) 有限要素法を用いた人工関節再置換術におけるセメントレスロングステムの有効性の検討
本部貢司, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二
第31回日本臨床バイオメカニクス学会, 2004, 11, 福岡

- 64) 京セラPerFix HAP+ステムの初期固定性について
福本 巧, 赤崎幸二, 相良孝明, 木村 真, 河野淑彦, 岡 潔,
竹村健一, 武内晴明
第108回西日本整形・災害外科学会, 2004, 11, 宜野湾
- 65) 距骨滑車骨軟骨損傷に対しMosaicplastyによる骨軟骨移植術を施行した一例
勝嶋葉子, 帖佐悦男, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博,
河野 立
第108回西日本整形・災害外科学会, 2004, 11, 沖縄
- 66) 踵骨関節内骨折の観血的治療経験
田邊龍樹, 小牧 亘, 小牧一磨, 本部浩一, 黒沢 治, 栗原典近,
江夏 剛, 船元太郎
第108回西日本整形・災害外科学会, 2004, 11, 宜野湾
- 67) 肥厚性硬膜炎の3例
福嶋秀一郎, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭,
公文崇詞, 三橋龍馬
第108回西日本整形・災害外科学会, 2004, 11, 宜野湾
- 68) 脊椎手術を施行した透析患者症例の検討
公文崇詞, 黒木浩史, 久保紳一郎, 帖佐悦男
第108回西日本整形・災害外科学会, 2004, 11, 宜野湾
- 69) 両膝の半月板に形態異常を認めた1例
小松奈美, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,
山本恵太郎, 前田和徳, 吉川大輔
第108回西日本整形・災害外科学会, 2004, 11, 宜野湾
- 70) 大腿に及ぶ腸腰筋腫瘍を形成した糖尿病の1例
猪俣尚規, 浪平辰州, 野中隆史
第108回西日本整形・災害外科学会, 2004, 11, 宜野湾
- 71) 腰部椎間板ヘルニア術後に馬尾症候群をきたした1例
大倉俊之, 田島直也, 後藤啓輔, 樋口潤一, 井上 篤, 久保紳一郎,
黒木浩史, 帖佐悦男
第108回西日本整形・災害外科学会, 2004, 11, 宜野湾

- 72) 発症後1ヶ月以上経過した小児環軸椎回旋位固定の3例
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 公文崇詞, 福嶋秀一郎,
三橋龍馬, 帖佐悦男
第62回西日本脊椎研究会, 2004, 11, 宜野湾
- 73) CMS, LCS合併患者にリマプロスト投与で一期的手術を回避できた1症例
後藤啓輔, 樋口潤一, 井上 篤, 大倉俊之, 田島直也
宮崎県LCSフォーラム2004, 2004, 11, 宮崎
- 74) 中高齢者に対する半月板切除術で改善する症状についての検討
石田康行, 酒井 健, 海田博志
第30回日本関節鏡学会, 2004, 12, 東京
- 75) 宮崎県高校野球選手に対する傷害調査
河原勝博, 帖佐悦男, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河野 立,
福島克彦, 田島直也
第17回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2004, 12, 福岡
- 76) 当科における神経障害性関節症の治療経験
黒木修司, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 大宮博史,
山田正寿
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 77) 膝窩筋の浮腫および膝窩筋腱炎(腱鞘炎)を呈した一例
魏 国雄, 大江幸政
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 78) 足関節亜脱臼を伴う2次性(先天性内反足術後・外側靭帯機能不全)足関節症に対して外側靭帯再建術を施行した1例
園田典生, 村上恵美, 帖佐悦男
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 79) 当科におけるLCS型人工膝関節置換術の短期成績
山田正寿, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 大宮博史,
黒木修司
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎

- 80) 土木作業中外傷を機転としてガス生産性感染症を発症した1症例
桐谷 力, 安藤 徹, 佐藤圭創
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 81) 手指MP関節ロッキングの4例
小牧 亘, 田邊龍樹, 小牧一磨
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 82) 足趾間部に生じたピロリン酸カルシウム結晶沈着症の1例
福島克彦, 帖佐悦男, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博,
河野 立
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 83) 背部弾性線維腫の1例
浪平辰州, 野中隆史, 猪俣尚規
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 84) 痙直型脳性麻痺児の頸椎X線学的評価
小島岳史, 柳園陽一郎, 山口和正
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 85) 当院における大腿骨頸部骨折に対する治療方針—超高齢者に対するAustin-Moore型人工小骨
頭置換術の有用性について—
中村嘉宏, 長鶴義隆, 松岡知己, 川野彰裕
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 86) 大腿骨頸部内側骨折に骨接合術を施行した経験
大宮博史, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 山田正寿,
黒木修司
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 87) 当科における高齢者の大腿骨頸部骨折治療の現状と問題点
内田秀穂, 税所幸一郎, 村上 弘
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎
- 88) 当科における超高齢者大腿骨頸部骨折の周術期合併症の検討
池尻洋史, 神菌 豊, 野崎正太郎, 松岡 篤
第49回宮崎整形外科懇話会, 2004, 12, 宮崎

◆ 講 演

- 1) ウォーキングの医・科学的考察—健康運動としてのウォーキング—
田島直也
平成15年度宮崎県医師会健康スポーツ医学セミナー, 2004, 1, 宮崎
- 2) テロイド剤関節内注射の実際と問題点
大平 卓
第9回宮崎リウマチ医の会, 2004, 1, 宮崎
- 3) 縦靭帯骨化症 (OPLL) のはなし—本症とうまく付き合うために—
黒木浩史
難病医療講演会および相談会, 2004, 2, 都城
- 4) 関節疾患の診断と治療
帖佐悦男
球磨郡公立多良木病院病診連携委員会, 2004, 7, 多良木
- 5) 学部間・産学官連携を目指して—整形外科疾患の病態解明—
帖佐悦男
宮崎大学イブニングセミナー, 2004, 7, 宮崎
- 6) 骨粗鬆症治療薬についての最近の知見
帖佐悦男
南那加医師会, 2004, 7, 日南
- 7) 脊柱, 胸・腰椎の外傷と障害
田島直也
仙日整会 第31回スポーツ医学研修会, 2004, 8, 東京
- 8) 少年期のスポーツ傷害
山本恵太郎
平成16年度山田町スポーツ少年団指導者協議会研修会, 2004, 8,
山田
- 9) 腰痛・膝痛—痛みはどのようにおこるのか—
帖佐悦男
平成16年度宮崎大学医学部公開講座, 2004, 9, 宮崎

- 10) これからのスポーツ医学—予防医学—
帖佐悦男
スポーツ整形外科座談会, 2004, 9, 京都
- 11) 高齢者の腰痛
田島直也
第104回九州医師会医学会 第4分科会整形外科学会, 2004, 10,
宮崎
- 12) 日常遭遇する腰痛、膝痛
帖佐悦男
平成16年度(第23回)くすりと健康講演会, 2004, 10, 都城
- 13) 関節リウマチの外科的治療
税所幸一郎
第22回リウマチ移動教室, 2004, 10, えびの
- 14) ウォーキングの医・科学的考察—健康運動としてのウォーキング—
田島直也
第四回香川県スポーツ医学研究会, 2004, 11, 高松
- 15) 股関節疾患の診断と治療
帖佐悦男
第五回宮崎県骨関節研究会, 2004, 11, 宮崎
- 16) 骨関節疾患の診断と治療
帖佐悦男
第15回宮崎県北地区整形外科医会, 2004, 11, 延岡
- 17) スポーツ医学—成長期のスポーツ障害—
帖佐悦男
宮崎市民スポーツ大学, 2004, 12, 宮崎
- 18) 股関節疾患の画像診断
帖佐悦男
都城地区整形外科医会, 2004, 12, 都城

編集後記

昨年は、われわれの教室と関係の深い第二代学長の玉井達二先生がご逝去されました。私は直接先生の教えを受けたわけではありませんが、たくさんの先輩方のお話を伺うと宮崎の整形外科の発展になくてはならない方だったことがわかります。心よりご冥福をお祈りいたします。また、今年の3月で新しく行われた卒後臨床研修制度が2年を経過し、われわれの教室にも新しい仲間が増えました。

そこで今回の同門会誌は、“玉井達二先生を偲んで”と“新入医局員歓迎”の二つのテーマを中心に編集させていただきました。“玉井達二先生を偲んで”では住吉昭信学長にも特別寄稿を頂きました。紙面をお借りしまして深くお礼申し上げます。

このほかのトピックとしては、日整会野球大会で昨年に続き2連覇を成し遂げました。これで昨年の優勝がフロックではないことが証明されました。関本キャプテン兼医局長も大変喜んでおります。次回号にはその報告がのると思います。さらにこのほかの内容としては大学の近況報告や関連病院報告、新入医局員挨拶、新入賛助会員のご挨拶、新規開業挨拶などがあります。隅から隅まで目を通していただけると幸いです。

今回の編集を担当させていただいたのは、渡邊と貫禄のある石田先生それに新たに教室の事務として働いていただいている川野さんでした。次号より石田先生を中心に編集したいと思います。同門会誌に対するご意見につきましては石田先生までお願いします。

平成 18 年 6 月 吉日

渡 邊 信 二
石 田 康 行
川 野 実 夏

宮崎大学医学部整形外科

同 門 会 誌

発 行 日 平成18年6月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 渡 邊 信 二

印 刷 所 身体障害者通所授産施設やじろべえ